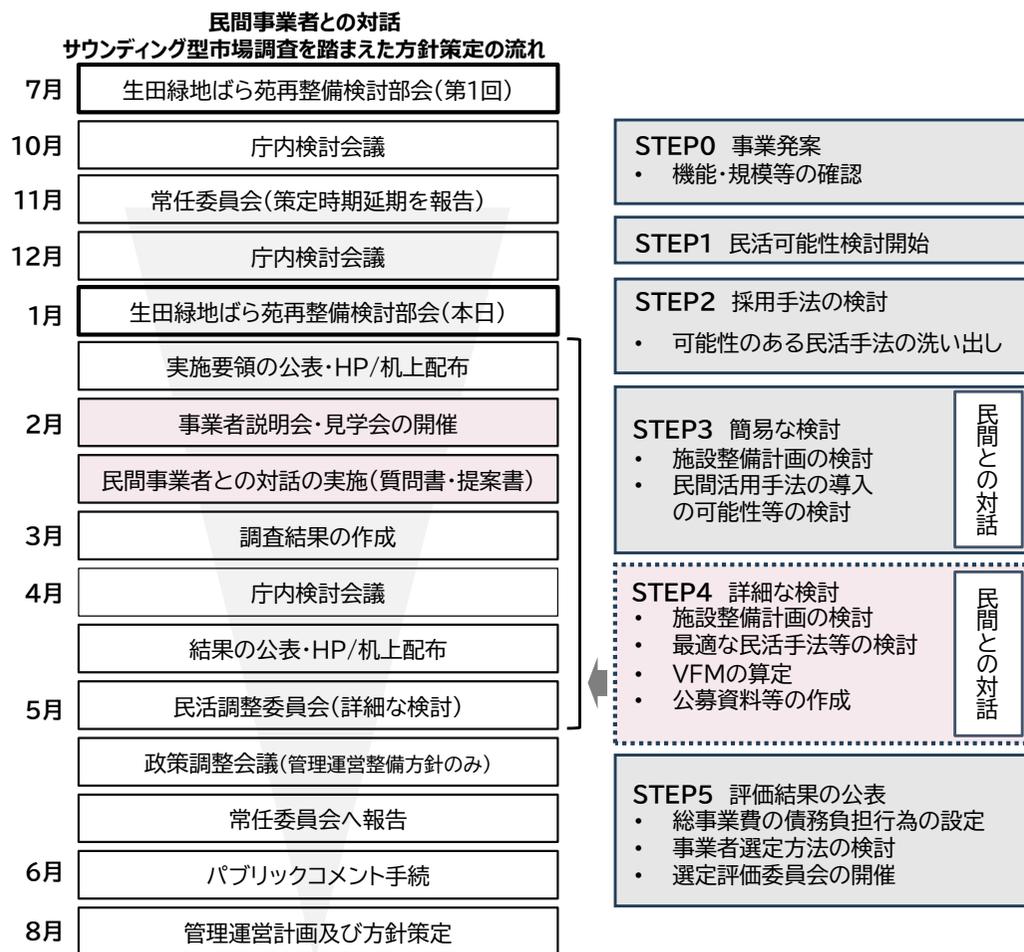


周辺施設との関係:青色、環境アセス、景観、生物多様性:黒色、市民協働・対話の手法:緑色、事業運営手法

氏名	生田緑地ばら苑再整備検討部会での主な意見
<p>造園分野 東京農業大学元教授 金子 忠一氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生田緑地内の他の施設との運営における関係性についても、検討を進めてほしい。 ボランティアがリセットされるのは分かるが、再登録となるのは懸念がある。 ばら苑の施設オープンと市民協働のタイミングはずれると考えている。再整備中も関わって貰えるよう意識して進めてほしい。 「ばら苑に隣接するミュージアム」であり、「ミュージアムに隣接するばら苑ではない」という観点で、市民文化局と調整し進めてほしい。
<p>生態工学分野 明治大学農学部教授 倉本 宣氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ばら苑やミュージアムを、生田緑地全体の一部としてマネジメント会議や自然会議で議論できる形に位置づけてほしい。 アセスメントは影響を予測・評価するものであり、「どのような自然をつくるか」を保証するものではない。 過去には小動物が予測どおり絶滅した例もあり、「どういう自然にしていくのか」を明確に議論する必要がある。 現地周辺は昔水田や畑の明るい環境であった。自然を「守る」だけでなく、どのように変化させ、どう生物を豊かにしていくかを考えるべき。 「持ち込まない・持ち出さない」を原則とする生田緑地憲章を理解・共有し、整備にあたりどうとらえるのか具体的な内容を形成すべき。 民家園の草屋根研究や尼崎の森の再生、保全生態学の勉強会などを踏まえ、ばら苑の展示や整備に身近な自然の多様性を反映してほしい。
<p>文化分野 政策研究大学院 大学名誉教授 垣内 恵美子氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ばら苑とミュージアムの整備と生田緑地本体との関係性は、最終的に管理経営の考え方と密接に関わる。既存施設と新しく作る今回の整備を、どういう関係性を持って価値魅力を向上させるのかを明確に整理すべき。 ボランティアは深く関わっており、解散ではなく継承・活用が望ましい。過去の事例でも、休止中の活動が再開時の集客につながっている。 有料化は良い取り組みであり、市民・市外双方への配慮を含め、優遇策や料金設定を検討すべき。 ミュージアムも事業内容を検討中で、柔軟な調整が可能のため、ばら苑整備と情報を共有しフィードバックを図ることが重要。 景観保全のため、自然と調和しつつ、一定規模・機能を確保する整備が必要。
<p>都市計画分野 日本女子大学 建築デザイン学部教授 薬袋 奈美子氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業・運営手法は重要で丁寧に検討すべき。指定管理者制度ではワーキングプアを生まない工夫が必要。 ばら苑は学びの場として他施設と差別化を図り、北側高台からの景観保全も基本方針に位置づけてほしい。 環境アセスに加え周辺も含めた生きもの調査を行い、守るべき環境と管理方針を整理することが重要。 ばら苑市民が納得できるばら苑の将来像を示し、職員の学びや検討過程を報告会などで共有することが重要。 閉苑中にボランティア募集や勉強会を実施し、話し合う場を設け、既存ノウハウや実績を活かし、解散ではなく継承・活用すべき。 ミュージアム敷地は緑地を含めて過大にならないよう、敷地選定・規模の考え方を明確にすることが重要。 ミュージアムの高さや立地を具体的に示し、景観保全を基本方針に位置づけることが重要。
<p>まちづくり分野 武蔵野大学大学院 非常勤講師 橘 たか氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活動形態を把握し、情報のずれを生まない共有・対話が必要。 他ばら苑の視察報告だけでなく、勉強会や見学会を通じた共同の学びを行うと良い。 現在のボランティアや周辺のファンと継続的に対話し、共に動く姿勢を持つことが重要。 整備前から対話を重ねることで、広い層の理解と支持を得やすくなる。 ボランティアが主体的に関われる参加の入口やワークショップを設けると効果的。
<p>防災分野 専修大学 ネットワーク情報学部 佐藤 慶一氏</p>	<p>(当日ご欠席・事前レクでいただいたご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年は夏がとて暑いため、計画の中でも暑さ対策が欲しい。現状は日陰が少ないのが気になる。 ばら苑の周囲の斜面地の状況を見ると、広域避難場所に指定されていないのか疑問である。 最終的にはアクセスがボトルネックになる。ばら苑までバスが通ったら良い。 フェアの時は電動車椅子の貸出があったが、アクセスのために借りられるものがあると良い。

■現在の民間活力導入に向けた検討状況

昨年度に行った民間活用手法導入に関する簡易な検討結果や、これまでの検討経緯を踏まえ、**令和8年1月から3月にかけて、民間事業者との対話（サウンディング型市場調査）を実施**しています。



■今回のサウンディング型市場調査の目的

- 「**ばら苑と新たなミュージアムの一体的検討に向けた諸条件**（事業の趣旨や対話項目、民間事業者に期待する事項、地域が抱える課題など）」を提示し、**近年の市場動向や事業環境の変化を踏まえながら、民間事業者の意見・提案を幅広く収集**します。そのうえで、事業方式や条件設定の妥当性を検証し、管理運営整備方針（案）へ反映します。
- 特に、**市場動向として重要となる、事業費の規模感や、事業スケジュール**（工事着手前の手続き、工事着手後の工期設定など）などについても対話を行い、事業の具体的な実施に向けて確認していきます。

■サウンディング型市場調査の資料構成

- 本日の検討部会で使用した資料を抜粋し、サウンディング資料として整理しています。**
- 適切な情報公開を踏まえ、民間事業者との対話や、提案を求めて行くことが必要であり、本サウンディングは**ばら苑再整備事業と新たなミュージアム事業を一体的に捉えた調査**として進めてまいります。
- サウンディング公表資料は、情報が多岐にわたることから、実施要領および基礎資料（基礎情報、ばら苑及び新たなミュージアムの計画に関すること）を基本構成として整理しています。

<サウンディング公表資料>

実施要領	基礎資料	事業概要（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の背景・目的 ・ 調査の概要 ・ 提案事項 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2施設の現況 ・ 2施設の整備 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2施設の一体整備の考え方 ・ ゾーニングイメージ ・ ばら苑の整備計画 ・ ミュージアムの事業活動 など



1. 背景と目的	
1-1. 計画の背景と目的	5
1-2. ばら苑の概況	5
1-3. 上位計画との関係	5
2. 現況の整理	
2-1. 土地利用の現況	6 【新規】
2-2. 既存施設の状況と再整備が必要となる要因	10
2-3. 市民からの提言	11 【新規】
3. 利用者の声	
3-1. 利用実態	12
3-2. 来園者アンケート	13
3-3. ボランティアの声	13
4. 課題の整理 及び 再整備のポイント	15
5. 生田緑地ビジョンでの東地区の位置付け	16
6. 拠点及び施設配置の検討	17
7. 一体整備の取組の方向性	19
8. 整備エリアの考え方	
8-1. 整備エリアについて	20 【更新】
8-2. 整備エリアの動線・機能	20 【新規】
8-3. 連携する周遊散策路について	21 【新規】
8-4. ゾーニングの考え方	22 【新規】
9. 施設間連携の考え方	
9-1. 施設間の高低差と造成について	23 【新規】
9-2. 機能分担と共用施設の活用可能性	23 【新規】

10.ばら苑

10-1.コンセプト、方向性 【更新】 24

10-2.ばら苑整備イメージ 【新規】 25

10-3.ばら苑の展示手法について 【更新】 26

10-4.管理運営の考え方 【更新】 32

10-5.段階的整備及び概算工事費 【更新】 34

10-6.今後の市民協働の考え方 【更新】 34

11. 事業・運営手法

11-1. 基本的な考え方 35

11-2.想定する事業体制・期間・範囲 【更新】 35

12. 事業スケジュール 【更新】 36

【更新】 【新規】

前回検討部会からの
更新箇所について、資料上部に表示
※体裁や表現の整理等は割愛しています。

なお、本部会で重点的にご審議いただきたい項目は、
赤枠で囲って明示しています。

1-1.計画の背景と目的

生田緑地ばら苑は、生田緑地の北東部の高台に位置し、**周囲を多摩丘陵の樹林地で囲まれた「秘密の花園」として親しまれ、現在、バラの開花期に合わせて春と秋の2回開苑**しています。

令和に6年5月に改定した「生田緑地ビジョン」では、**東地区を【花と緑の憩い・賑わい・交流ゾーン】と位置付け、ばら苑の再整備、新たなミュージアム構想、向ヶ丘遊園跡地利用計画などの多様な魅力が自然の輪の中で融合し、生田緑地の価値・魅力を向上させることを目指しています。**

近年では新型コロナウイルス感染症による影響や脱炭素社会実現に向けた取組、オープンスペースの多様な活用ニーズの高まりなどの様々な社会変容や、魅力ある公園づくりのために民間の資金やノウハウを導入する仕組みが設けられるなど、公園の整備・管理運営に際して新たな取組の可能性も広がっています。

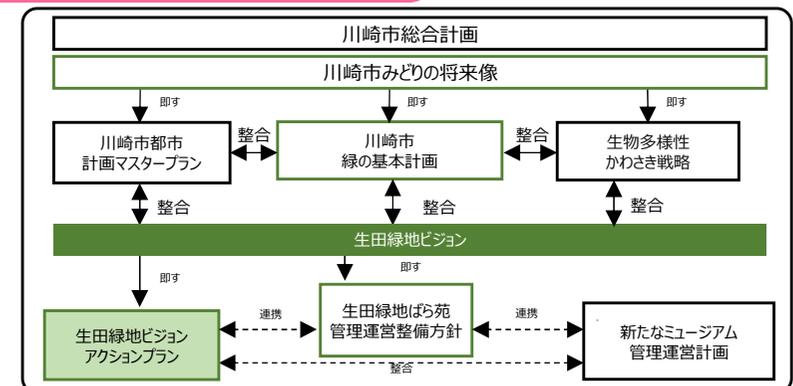
本方針は、**生田緑地ビジョンを踏まえ、ばら苑の展示手法および公園施設の配置、より具体的な整備内容、事業推進や管理運営の手法**などについて示します。



1-2.ばら苑の概況

設置	1958(昭和33)年、小田急向ヶ丘遊園地内の施設として開苑	
住所	川崎市多摩区長尾2丁目8番1号ほか	
面積	ばら苑及び周辺区域7.4ha（ばら苑1.2ha、管理ヤード、臨時駐車場0.86ha）	
ばら苑の品種	800品種3,300株(秋は620品種2,900株) ・四季咲大輪種（HT,ハイブリッドティアー） ・四季咲中輪種（FL,フロリバンダ） ・つる性種（CI,クライミングローズ） ・四季咲極小輪種（Min,ミニチュア） ・ハマナシやサンショウバラなどの原種のバラ	
ばら苑を構成する主な施設	植栽	バラ、サクラ、マツ、シラカシ、ツツジ、芝生等
	園路・広場等	中央苑路、中央西苑路、東苑路、西苑路、南苑路、芝生広場、第2イベント広場、カナル跡通路
	建築物	・ローズガーデンハウス160㎡、温室、コンテナトイレ（男子・女子各1基）、管理棟、作業小屋(ボランティア休憩スペース含む)、プレハブ倉庫
	工作物	・大バーゴラ、ベンチ ・白垂の彫刻（「白鳥と子供」「母と子」、 「花の女神フローラ像」等）
	駐車場	臨時駐車場60台（未使用：もみじ谷駐車場100台）
	自然	樹林地
管理体制	委託（(公財)川崎市公園緑地協会）	
ボランティア	登録人数：約160人 活動日：約12日/月	
開苑期間	春・秋の年間合計45日間（令和6年は47日間）	
入苑料等	無料（駐車場1,000円/台）	
入苑者数	令和7年 春 59,260人 秋 30,363人	

1-3.上位計画との関係



2-1. 土地利用の現況

小田急線の向ヶ丘遊園駅から南東側約1km、府中街道からのぼった高台に生田緑地ばら苑は位置しています。



生田緑地ばら苑への主なアクセス

●小田急線「向ヶ丘遊園駅」

[徒歩] 南口から徒歩約20分(正面ゲートまで13分、坂道・階段114段7分)

[バス] 南口からバス約5分「藤子・F・不二雄ミュージアム」バス停車

●JR南武線「宿河原駅」

[徒歩] 約23分(期間中は案内看板有)

●東急田園都市線「梶が谷駅」

[バス] 〔向01〕向ヶ丘遊園駅南口行約20分「藤子・F・不二雄ミュージアム」バス停車

生田緑地の主要施設



① 東口ビジターセンター



⑦ 生田緑地ばら苑



② 中央広場



⑧ 川崎市日本民家園



③ 柗形山広場



⑨ 川崎市青少年科学館



④ ホテルの里



⑩ 川崎市岡本太郎美術館



⑤ 園路



⑪ 川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム



⑥ 川崎国際生田緑地ゴルフ場



⑫ 新たなミュージアム構想

向ヶ丘遊園駅周辺は向ヶ丘遊園地などの娯楽施設などによる、まちの活性化や、生田緑地での憩い、梨・桃狩りなど、様々な時代の流れや人々を受け入れながら発展してきました。



小田急向ヶ丘ばら苑開苑 写真提供：小田急電鉄



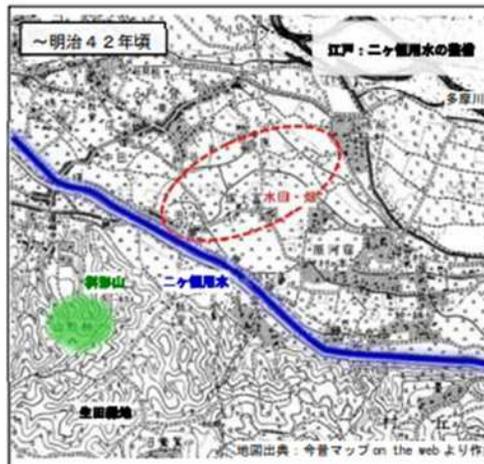
生田緑地ばら苑開苑

ばら苑の歴史

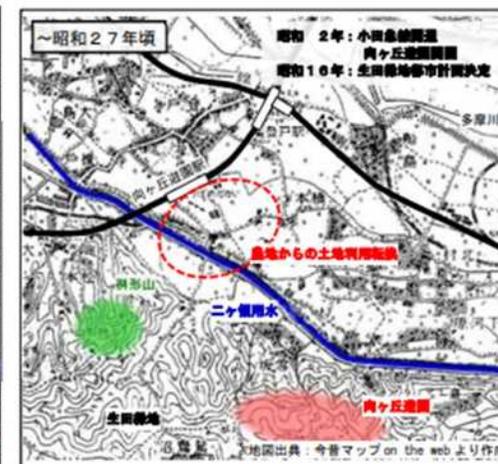
年	内容
昭和2年4月	小田急線の開業と同時に向ヶ丘遊園が開園
昭和32年	小田急線開業30周年事業としてばら苑建設を計画 ばら苑整備にむけて準備委員会メンバー (設計：東京大学農学部園芸学教授 横山光雄 ばらの栽培・育成：福羽発三、岡本勘治郎、小沢知雄など)
昭和33年5月	小田急電鉄株式会社が、「関東一のバラ園「小田急向ヶ丘ばら苑」」を整備・開苑 秩父宮妃殿下が来苑
昭和34年	開苑1周年を記念して高松宮妃殿下が来苑
昭和52年	ロイヤルコーナーに「花の女神フローラ像」を設置。 フラワーショー15周年記念
平成14年3月	向ヶ丘遊園閉園
平成14年～	市民の声にこたえる形で市がばら苑を小田急電鉄株式会社から引き継ぎ、生田緑地ばら苑として、春と秋の年2回開苑(春533(秋440)品種 春4,700(秋4,400)株)。市民ボランティアが除草作業を手伝う。
平成19年～	ボランティアがバラの栽培管理に参加
平成30年	現在の春800(秋620)品種春3,300(秋2,900)株数を確認

まちの変遷

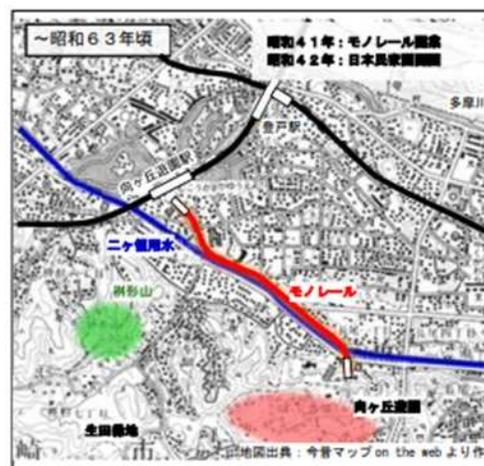
出典：登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョンから抜粋



- 江戸時代、田畑を潤す用水路としてニヶ領用水が整備された。
- 畑や水田が広がっており、多摩川、梨や多摩川梨などの農業が盛んであった。



- 「花と緑の遊園地」として向ヶ丘遊園が開園し、多くの人々が賑わい、豊かな自然環境のなかで楽しませた。
- 駅の開業と向ヶ丘遊園の開園に伴い、駅周辺の土地利用転換が始まった



- モノレールが開業し、向ヶ丘遊園駅から遊園地まで多くの人々と夢を乗せて走っていた。



- 向ヶ丘遊園の閉園やモノレールが廃止されたが、藤子・F・不二雄ミュージアムや日本民家園など、新たな文化施設等が誕生した。



春の開花



開苑中の様子



ボランティアガイド



ボランティアの活動

生田緑地の中のばら苑

春の開苑時には、パーゴラを彩るつるバラ、各国の要人とゆかりのあるバラを集めたロイヤルコーナーなど**800種3,300株(秋は、620種2,900株)のバラ**が咲き誇り、生田緑地のみどりを彩っています。各国の要人とゆかりのあるばらをきっかけに大使の視察等の受け入れも行っています。

昭和33年の設計時に意図された、**周囲の緑に囲まれた風景と大パーゴラやクラブハウスなどの人工美を加えた「造苑美のばら苑」を継承**しています。

回遊性・地域連携

ばら苑開苑時は、生田緑地中央地区と回遊する利用者が増加し、生田緑地の利用者増につながっています。また、**開苑時には、地元の学校等と連携したイベント等も実施**しています。



部活動の発表の場



地域の音楽大学の同期のグループ



バレエの発表。

市民協働

向ヶ丘遊園地閉園時に、ばら苑を愛する市民の声等に応える形で市が引き継いだこともあり、市民ボランティアの協力を得て維持管理運営を行っています。現在のボランティア登録者数は約160人となっており、長年活動されているボランティアも多い状況です。**ボランティアの活動内容は、バラの育成管理、ばら苑及び周辺の維持管理(除草、芝生管理、樹木管理、清掃等)や開苑期間中の苑内ガイドなど幅広く携わっています。**

近年のボランティア登録人数

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人数	168名	187名	160名



秘密の花園・観光拠点

ばら苑は、市街地から40m上がった丘陵地に位置し、周囲を樹林地に囲われていることから、「**天空の秘密の花園**」として、**年間約9万人(R6・42日間)が市内外(来苑者の約5割超が市外)から来苑しており、リピーターが来苑者の6割を占めています。**なお、開苑期間中は、テレビ等により開花状況が全国に発信され、観光地として賑わっています。

バラ「歴史を重ねたバラのコレクション」

苑内には、**古の銘花から最新品種まで、作出年代に偏りなく、800品種、約3,200株のばらを育成・管理**しています。(モダンローズ(ハイブリッドティー(HT) 340種、フロリバンダ(FL) 137種、シュラブ(S) 85種、クライミング系(CL) 90種、グランディフローラ(Gr) 10種、ミニチュア(Min) 32種、ポリアンサ(Pol) 2種)、オールドローズ 80種、野生種 13種等)

有識者へのヒアリング内容

【植物分類学】

- ・生田緑地ばら苑のバラは関東圏のバラ園では珍しく、関西地方で育成されたバラが保存されており、研究の際に重宝した。
- ・古いバラ園でも保全していない品種が残っており、病虫害から守りながら、時には接ぎ木をしながら守ってきた証拠だと思われる。
- ・ばら苑を再整備する際には、貴重な品種は接ぎ木をしながら保全し、継承すると良い。
- ・新しい品種だけで整備すると他のばら苑と同じになってしまうので、特色を残す視点も大事。

【育種・植栽プランナー】

- ・改植がされなかったことで、今では見ることが少ない「希少な古い品種」が多く残っている。

Dorothy Page Roberts
英, Dickson, 1907年Christopher Stone
英, Robinson, 1935年Los Angeles
米, Howard, 1916年Augustine Halem
仏, Guillot, 1891年Elizabeth of York
英, Taylor, 1928年

生田緑地ばら苑が保有する戦前に作出されたハイブリッド・ティー系品種コレクションの例

■自然現況

生田緑地は、クヌギ、コナラ等の雑木林や谷戸部の湿地、湧水等の貴重な資源が市民の方々の継続的な保全活動などにより残されています。多様な在来植物が生息しているほか、ゲンジボタルなど貴重な生き物が生息しています。

雑木林の中には高木、中低木、低木の樹林で構成されており、日の当たりにくい林床部にも様々な植物が生育しています。

計画対象地周辺の樹種は、スギ、クヌギ、サクラ、トチノキ、シラカシ、ツバキ、クリ等がみられキンラン等の希少種も見られています。（令和4年実施植生調査）また、台地部の上の平坦地は、空地雑草群落（芝生）となっています。



キンラン

■ナラ枯れの状況

生田緑地では、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、コナラ等が集団的に枯損する「ナラ枯れ」が平成30(2018)年頃から発生し、令和6年9月時点で累計約2,000本を超える樹木が被害を受けています。

東地区のもみじ谷駐車場周辺にも、ナラ枯れが発生し、駐車場としての利用ができない状況となっています。

■もみじ谷の湧水

生田緑地は、雨水が関東ローム層とその下のおし沼砂礫層を通り抜け、不透水層である飯室泥岩層にぶつかって、しみだしているため、ため池や湿地がみられます。（生田緑地の自然観察案内参照）

もみじ谷駐車場脇では、湧水を利用し、ビオトープとして保全する活動がされています。



東地区内に作られたビオトープ

■防災・斜面地の状況

対象地は樹林に囲まれており野鳥を始め、生態系の保全にとっても重要な役割を果たしている一方で、植栽木の高密度等でできた死角、枯れ枝の飛散・枯木による倒木事故など、利用者の安全確保にとって植栽の適正な管理が必要となっています。

また、生田緑地は、災害時に一時的な避難や安全確認を行うために集合する広域避難広場に指定されています。これに対応した安全なアクセス路の整備等を再整備に合わせ進めていく必要があります。

生田緑地周辺は、土砂災害防止法に基づく急傾斜地の崩壊に関わる土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定を、令和3年までに完了していますが、生田緑地内は、令和4年度以降、2巡目の基礎調査が実施されており、今後の調査状況を踏まえ、必要に応じた対応を進めていきます。

ガイドマップかわさきハザードマップ



ガイドマップかわさき防災マップ



2-2. 既存施設の状況と再整備が必要となる要因

施設設置から相当の年数が経過し、木材の腐食やコンクリートのひび割れなど、老朽化が著しい状況となっています。利用者の安全確保を図るとともに、**展示機能の魅力向上を目的として、施設の更新が必要**です。

該当施設：舗装、側溝、ベンチ、四阿、管理棟、温室、遊具



種別	再整備の必要性
遊戯施設	
園路広場	日常的な目視点検の他、必要に応じ応急対応を行っているが 現時点（2025年度）で処分制限期間を大きく超えている。
管理施設	日常的な目視点検の他、必要に応じ応急対応を行っているが 早急に施設の更新が必要である。
休養施設	
管理事務所	遊園から引き継いでおり、オープン時の昭和33年のポスターで確認できる。 現時点（2025年度）で処分制限期間を大きく超えている。
温室	既存施設は、現状バラの生育や育種に適した施設となっていない。処分制限期間を過ぎていることから、 再建築を前提とし、規模も最小限とすることで、コスト縮減につながる。
便益施設 トイレ	処分制限期間内ではあるが、現状リースであり、 通年開苑に向けて整備することで、長期的なコスト縮減につながる。

現在のばら苑は整備から約70年が経過し、すべての施設が更新時期を大幅に超えていることから、部分的な改修ではなく全面的な更新が求められています。また、当初の水景を中心としたデザイン意図はほぼ失われており、昭和初期の面影はあるものの、**現代の利用者にとって十分な集客力を備えた施設とはなっていません。**

■ 再整備の必要性 1

現在のばら苑は、老朽化により改修を繰り返され、地下水をくみ上げた噴水やカナールを中心とした、**当初デザインの意図と異なる景観**となっている。



■ 再整備の必要性 2

近年は、老朽化したばら苑に対し、各都市で入園料の導入と共に**再整備やリニューアルが実施**されている。集客性のある施設にするには、**夏季でも長時間滞在しやすい環境を整える暑熱対策や写真映えやインスタ映えを意識した景観演出**が施される必要がある。

【近年再整備が実施された行政が管理するバラ園】
例：いばらきフラワーパーク（茨城県）、岩見沢公園バラ園（北海道）、ぎふワールド・ローズガーデン（岐阜県）、福山市ばら公園（広島県）、長居植物園バラ園（大阪市）等

現在のばら苑→



暑熱対策やフотスポットを意識したデザイン(コピスガーデン)

■ 再整備の必要性 3

東地区が市民ミュージアムの建設地としても決定したことも加味し、生田緑地内に立地する施設として、**大規模造成や樹木伐採を最小限に抑えることを念頭に、ミュージアムの建設による景観の変化を加味してばら苑側を適宜盛土し、再整備を行う必要がある。**



レベル調整の必要性（高低差約4m）

小規模な改修では、暑熱対策やバリアフリー対応、さらにはコンセプトの不十分さといった根本的な課題を解決することができず、ばら苑を将来的な集客拠点として再生するには限界があります。そのため、**本格的な更新と再整備を進める必要があります。**

2-3. 市民からの提言

生田緑地東地区のばら苑再整備の決定、また新たなミュージアムの開設候補地の決定にあたって、生田緑地に長く貢献され、定期的にご意見を伺ってきた市民団体「生田緑地マネジメント会議」から、これまでに2件の提言書が提出されています。

● 提言書 『生田緑地ばら苑』再生について（令和3年3月21日） 生田緑地マネジメント会議（生田緑地ばら苑プロジェクト会議）

（本文抜粋）

提言の理由

- 川崎市の管理となってから、本格的な整備がなされていない。ばら苑及びその周辺とのネットワークの在り方（→既存の4館を連携させる）を検討することは、喫緊の課題。
- 様々な施設がある生田緑地の中でも、ばら苑は、観光集客力のポテンシャルという点で最も秀でている。ばら苑の存在効用ともいえる『鑑賞型Garden』としての魅力を高めつつ、運営方法を見直す等して利活用の改善を図ることができれば、他の近隣観光地との差別化を創出できる。多岐にわたる施設が混在する生田緑地エリアの価値をより一層高める。
 - 現在の一般公開は、春・秋合わせて年間6週間程度であり、市の資産として適切な利用形態ではない。市民が利用できる期間を長くする必要がある。また、隣接する小田急の集客施設を訪れる内外観光客の受け皿として、いつでも回遊できる通年開放型ばら苑へと、更なる発展が期待されている。春秋の最盛期以外でも、四季咲き性のバラは長いシーズン楽しむことができ、バラ以外にも桜や紅葉、自然豊かな緑、開放的な空間を味わうことも可能。
 - 定期的な施肥は行っているものの、長年に亘る同一種の連作による障害も見られ、大規模な土壌改良が望まれる。Gardenに関しては予算の制約から現存株維持的な管理にならざるを得ず、開花期間に合わせたバラ花のメンテナンス等も、ボランティアと外部の一部有識者のアドバイスにより成り立っているのが現状。さらに、通年開放を目指すとするならば、バラの開花頼りのGarden構成ではオフシーズンの来場者からの満足も充分に得られず、観光リピーターの醸成も期待できない。市の価値ある資産・施設として、具体的なビジョンの構築が望まれる。

今後必要となる検討項目（案）

■ インフラ

基本的なインフラの状態を確認し、適切な利用・運営を行うための基本的な整備を行う必要がある。

- ・市独自のアクセス路
- ・上下水道、電気の増強
- ・バリアフリーへの配慮

■ 施設

生田緑地の一部として誇れる場所となるために、以下の施設が必要である。

- ・管理棟・温室等
- ・展示・講習等の実施できる場所
- ・ボランティアの打ち合わせ、荷物置き場、休憩・シャワー等スペース
- ・トイレの充実
- ・カフェ等の飲食・来苑者の休憩スペース
- ・子どもが伸び伸びと過ごせるスペース

■ その他検討・配慮すべき事項

- ・周辺施設との関係（博物館、自然）
- ・交通アクセス
- ・もみじ谷と駐車場スペースの在り方
- ・災害時への備え
- ・リニューアルの方向付けを誰に委ねたらよいか
- （ランドスケープ、建物設計、Garden設計、植栽デザイン等）
- ・苑の運営方法

● 提言書 新たなミュージアムの考え方について（令和6年9月30日） 生田緑地マネジメント会議（生田緑地東地区を考えるプロジェクト会議）

（本文抜粋）

新たなミュージアムを許容するための条件として、この提言を提出するものです。

- （1）生田緑地にふさわしい施設として整備すること。
 - ①新たなミュージアムの建設にあたっては、影響範囲の植生や微気象（気温、湿度、風など）、湧水や水みち（地下で水が流れやすい経路）を調査し、建物が建つことでどのような影響が生じるかを把握し、それらをわかりやすく示した上で、生田緑地への影響が少なくなるように配慮した整備を行うこと。
 - （2）生田緑地東地区の景観を損なわない位置に配置すること。
 - ①ばら苑の検討にあたっては、令和2年度に生田緑地マネジメント会議から提出した提言「『生田緑地ばら苑』再生について」を踏まえた検討をすること。
 - ②現在のばら苑の面積は維持すること。
 - （3）里山生態系複合※の創出を図ること。
 - ①里山の一部としての目標とする動的な自然を設定し、雑木林だけでなく里山を構成する生態系を再生すること。
 - ②生田緑地内で採種した種苗を計画策定中から事前に育て、開館時には樹木のサイズよりも系統を重視して植栽し、従前のように鑑賞性のみを追い求めるのではなく、地域性種苗による里山生態系複合の創出を図ること。
 - ③建物外構の植栽については、生物多様性の普及啓発を目的とした学習教材として活用を図り、来館者に対してこれらの取組内容を示すサインを敷地内に掲示するなど、生物多様性への関心を高めるための工夫を講じること。
 - （4）設置にあたっては適切な安全対策を講じること。
 - ①建設時はもちろん、継続的な安全対策をきちんと講じ、分かりやすい形で公表すること。
 - ②災害時の備えを充分にすること。
 - （5）アクセシビリティ（利用しやすさ）の向上を図ること。
 - ①隣接する住民も利用しやすくなるような動線を検討し、利便性向上のための対応をすること。
 - （6）生田緑地東地区の整備にあたっては、所管に関わらず責務を果たすこと。
 - ①新たなミュージアムは生田緑地にある施設として、生田緑地マネジメント会議の会員になることを踏まえ、来年策定される管理運営計画の柱に生田緑地の一員としての考え方を記すこと。
 - ②今後の取り組みについても、定期的に生田緑地マネジメント会議と相談すること。
- ※里山生態系複合…
里山生態系複合（里山ランドスケープ）は、農業的な人為と自然の力がつりあって形成された、雑木林、草地、農地などの複合体で、生物学の階層で言えば生態系が複合したランドスケープにあたる。

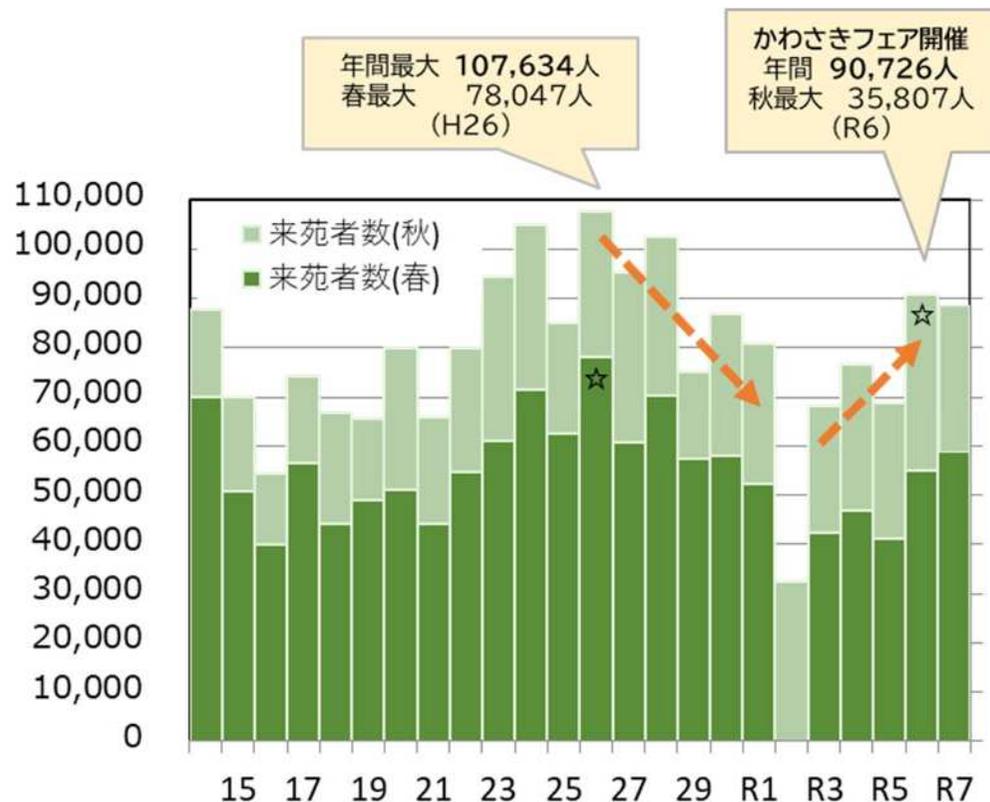
ばら苑の維持管理運営に対する課題の解決や、新たなミュージアムとともに生田緑地の魅力向上に寄与することを期待されている。

3-1. 利用実態

●春・秋 来苑者数の推移

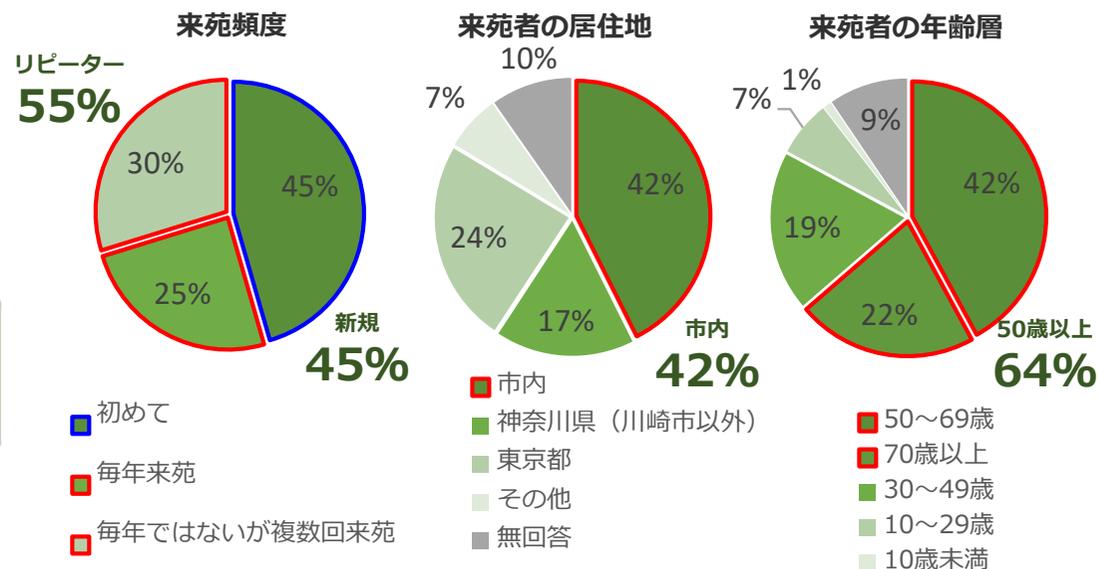
- ・来苑者数は、平成26年度の10.7万人をピークに減少傾向ですが、**コロナ期以降、ゆるやかな増加傾向**にあります。
- ・令和6年の秋開苑では、**生田緑地が全国都市緑化かわさきフェアのコア会場**になり、**秋の来苑者数が過去最大となり**、年間来苑者数も過去の最大に近づきました。
- ・令和7年の春開苑では、**コロナ期前（H29～）の春の来苑者数を超えています**。

平成14年から令和7年までの来苑者推移



●来苑者の属性(R7春アンケート N=343名)

来苑者に現地でお声がけし、来苑頻度や居住地等についてアンケートを実施しました。※R5秋にも同様のアンケートを実施。



参考:R5秋	参考:R5秋	参考:R5秋
<ul style="list-style-type: none"> ・リピーター 63% ・新規 37% <p>新規の来苑割合が増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 58% ・東京都内 19% <p>市外・県外からの来苑者割合が増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> 50歳以上: 64% 30～49歳: 29% 10～29歳: 6% <p>大きな変化なし</p>

かわさきフェアによる広報効果もあり、**リピーターに加え新規の来苑者や市外・県外からの来苑者の割合が増加**しており、全体の来苑者数も増加傾向ですが、来苑者の高齢化傾向が進んでおり、**若者世代向けのSNS等を活用した広報や写真を撮りたくなるテーマのある場が少ない等の課題**があります。

3-2. 来苑者アンケート

● 来苑者のばら苑改善に向けた意見(R7春アンケート N=343名)

来苑者への現地での声掛けによりアンケートを実施しました。その結果、多くの来苑者がバラの種類の豊富さを魅力と感じている一方で、**日陰や飲食・休憩施設の不足を課題として挙げており、より長く滞在できる環境づくりに向けた施設計画や植栽計画の必要性**が明らかになりました。

1. 利用者が評価している点

- バラの種類が豊富 (22.6%)
- 緑に囲まれた景観が良い (17.3%)
- 入苑無料であること (17.1%)

→ 自然環境・景観の良さと、無料で楽しめる点を評価。

2. 利用者が感じている課題

(1) 施設・環境面の不足

- 日陰が少ない (18.8%)
- 暑さ対策、休憩環境の不足が課題。
- 飲食販売が少ない (14.0%)
- 滞在のしづらさにつながる。

(2) アクセス面の不便さ

- 駅から遠く不便 (16.1%)
- 公共交通や徒歩動線の課題。

(3) 開苑期間の限定

- 期間が限られている (14.2%)
- 来苑機会や利用満足度が制約される。

3. 利用者ニーズ (改善の方向性)

(1) 施設面の充実

- 飲食・休憩施設の充実 (25.7%)
- 四季の草花との混植 (9.3%)
- 滞在価値を高めるニーズが高い。

(2) アクセス改善

- アクセスの改善 (18.9%)
- 動線の整備、交通手段の検討が求められる。

(3) 開苑期間の拡大

- 通年開苑 (13.7%)
- 利用機会の拡大を希望する声。

4. 周辺エリアに求められている機能 (自由記述の集計：上位3項目)

- カフェ、キッチンカー、BBQなど 飲食機能の充実 (25.7%)
- 芝生広場等のオープンスペース (18.2%)
- 植物関連施設や森のような自然要素 (15.5%)

→ 「滞在できる」「楽しみが増える」環境整備への期待が大きい。

5. ばら苑の今後のあり方に関する意見 (多数意見)

- ばら苑を継続してほしい
- 「現在のままで有料化する価値がある。継続して後世に残してほしい」

(その他の意見)

今のままで楽しめる、このままでよい、入苑料を取るなら四季の花を植えて通年入苑できるように、アクセスに日陰が欲しい、おいしいレストランがほしい、ボランティア活動の拡大、遊具の設置、シャトルバスの充実

3-3. ボランティアの声

● ボランティアのばら苑再整備に向けた意見(R7春 N=20名)

ボランティア活動日に有志を対象とした説明会を行い、二次元コードによるアンケート調査を実施しました。アンケートでは、**ボランティアとの協働の仕組みやバラの品種の豊富さが大きな魅力**として挙げられ、**育成環境や景観の良さも評価**されました。一方で、**施設の老朽化や来苑者向け設備の不足、アクセスや動線など、受け入れ環境 (来苑者の動線やアクセス) や管理運営面の課題**も明らかになりました。

1. 生田緑地ばら苑の魅力・ポテンシャルの整理

(1) 協働による運営の強み

- ボランティアとの協働の仕組み (30%)
- 市民参加が定着しており、持続的な運営の重要な資源となっている。

(2) バラそのものの魅力

- バラの品種や株数の豊富さ (20%)
- 他にはない多様性が、来苑者の満足度にも直結。

(3) バラの育成に適した自然条件

- 安定した気候・日当たり・風通し (18%)
- 良質なバラを維持するうえで大きな強み。

(4) 立地や景観の良さ

- 丘陵地・緑に囲まれた景観 (18%)
- 自然環境との一体感が強みとなり、空間の特別感を創出。

2. 生田緑地ばら苑の抱える課題（管理・運営面）

(1) 専門性の確保

プロのガーデナーによる管理や指導（36%）

→ 高い品質を維持するための専門知識・技術が課題。

(2) ボランティア体制の強化

ボランティア体制（31%）

→ 協働は強みである一方、持続的な体制整備が求められる。

(3) 魅力向上に向けたサービス

飲食や物販などの魅力向上施設（13%）

→ 滞在価値を高めるためのサービスが不足。

3. 生田緑地ばら苑の抱える課題（整備面）

(1) 苑内デザインの一体感

バラの配植やレイアウトの統一性不足（39%）

→ 園全体の景観としての完成度を高める余地が大きい。

(2) 来苑者向けの施設・設備不足

来苑者向け施設・設備不足（18%）

→ 日陰・休憩・飲食等の不足が利用満足度を低下させている。

(3) 管理者・ボランティア向け設備不足

管理者・ボランティア向け施設不足（16%）

→ 業務効率や協働活動のしやすさに影響。

●ばら苑ボランティアのばら苑再整備に向けた意見(R7春 N=20名)

併せて、二次元コードによるアンケート調査にて、自由記述で「ばら苑にとって配慮すべき事項」や「具体的な取組」についても伺いました。その結果、**ボランティアの歴史や文化を尊重した指導体制の必要性、ボランティアの継続性や体制整備、育成環境の維持や既存株の保全、景観や庭園デザインの工夫、アクセスや休憩施設など受け入れ環境の改善といった多様な課題**が挙げられました。

●ガーデナー

- ・ ボランティア活動を理解し、寄り添って指導できるヘッドガーデナーがいてほしい。
- ・ ボランティアの歴史や文化を尊重した監修体制としてほしい。

●ボランティア

- ・ デザイン・関わる業者・方針などを、日頃関わるボランティアと相談しながら進めてほしい。
- ・ 魅力発信にはガイド活動が重要。
- ・ 参加しやすい一方で継続につながりにくく、体制づくりが課題。
- ・ 市民協働がばら苑の大きな魅力であり、この文化を維持してほしい。

●入苑料

- ・ ばら苑の公園事業で採算を取るの難しい。

●開苑期間

- ・ アクセスの悪さを踏まえると通年開放は適さず、季節開苑のままで期間を延ばす方向が望ましい。

●バラの育成環境

- ・ 現在と同じ日当たり・風通し・土質の環境を確保してほしい。
- ・ 移植はリスクが高く、既存株を傷める可能性がある。
- ・ 地盤の安定性を考えると、高台で平らな日当たりの良い場所が適している。
- ・ 新規苗での植栽が望ましい。

●バラの品種・株

- ・ 今ある株の存続が、ばら苑の価値維持において最も重要。

●景観

- ・ ばら苑としてのまとまりある空間の確保が必要。
- ・ 周辺の緑は可能な限り残してほしい。

●庭園デザイン

- ・ 低コストで長期的に維持しやすいデザインを希望。
- ・ ナーセリーがあれば、ボランティアによる苗づくりも可能。

●アクセス

- ・ 来苑者がアクセスしやすい立地条件が重要。

●施設・建築

- ・ 暑さ・雨天時に対応できる休憩スペースが必要。
- ・ 建物を設置する場合は、周囲の緑と調和したデザインにしてほしい。

●工事

- ・ 大量に出る土は、生田緑地内で再利用してほしい。

開苑から約70年が経過し、老朽化したバラや施設の再整備を行うにあたり、生田緑地ばら苑および周辺が抱える課題や新たなミュージアムとの連携もあわせて検討を行います。今後のばら苑が担うべき役割を、「アクセス・動線」「景観・みどり」「憩い・賑わい・交流」の3つの視点から整理し、再整備のポイントを明確にしました。

	アクセス・動線の視点	景観・みどりの視点	憩い・賑わい・交流の視点
魅力	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵の高台にあり道中の眺望が美しい 緑のトンネルを抜けた先に広がる花園 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな緑に包まれた景観 もみじ谷の湧水地などの自然環境 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な地域の人がバラの鑑賞に集う、賑わいの空間 新たなミュージアム開設予定地に隣接
現況・課題	<p>【施設の老朽化、高低差】</p> <ul style="list-style-type: none"> いつでも利用できる車両用動線がない 周辺地区との回遊性のある散策路がない 通路や階段が急勾配、老朽化 駐輪場や駐車場の検討が必要 	<p>【生田緑地の資源活用の不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然資源の活用と魅力発信不足 樹木の適正な管理の必要性 	<p>【市民(利用者)サービスの不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 客層がバラの愛好家や短い期間に来苑できる方に限定 若年層や家族連れへのエリアの魅力を発信不足 新たなミュージアムとばら苑の連携 「環境教育、レクリエーション」等公益的なサービスが不足 建築物・施設・設備の劣化、利便施設の不足 バラの品種の検討（感染症や気温上昇などへの対応） 持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保
課題解決に向けた検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 道路構造令に準じた安全・安心な車両動線及び、建築基準法上の接道を確保 階段や園路等の老朽化した施設の再整備 中央地区や周辺区域との回遊性向上に向けた散策路整備 来苑者用駐車場、駐輪場の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな緑を感じる風景の継承 四季の変化や手入れされた雑木林を楽しめる地域や民間事業者との協働による樹林地管理 既存の紅葉、湧水地の保全・活用 里山の生き物を守り育てる保全・整備 	<ul style="list-style-type: none"> 通年開放に向けた環境整備 新たなミュージアムと連携した、利用者ニーズを考慮した休憩・便益施設、交流の場の創出、管理運営 憩い・賑わい・防災機能としてオープンスペースの確保 継承する品種、土壌改良や対候性の品種検討 持続的に魅力的なサービスを提供できる利用料金制の導入
再整備のポイント	<p>誰もが訪れやすいアクセス環境の改善</p> <p>【公園機能の発揮】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの道（心とからだ） 周辺エリアとのつながり 	<p>生物の生育・生息空間の場として樹林地機能の改善・活用</p> <p>【緑の拠点としての機能・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性 環境教育、調査・研究 	<p>持続可能な管理運営を担保する 公民連携体制の構築、関わりやすい仕組みの構築</p> <p>【市民サービスの向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と人との交流、遊び・学びの場（体験・学習） サードプレイス（居場所づくり）

東地区（向ヶ丘遊園跡地他）
⇒【花と緑の憩い・賑わい・交流ゾーン】

【整備の考え方】

- ・憩いや賑わいの創出や様々な交流、周辺地域の活性化を促進する
- ・豊かな緑地の保全を誘導し、周辺と連携した活用を図る
- ・ばら苑の通年開放や避難場所等の検討を進める

【エリア】ばら苑及びばら苑周辺区域(7.4ha)

【内容】

- ・花と緑の拠点に、**生田緑地ばら苑を再整備**する
- ・ばら苑と市民ミュージアムが連携した**交流の場**とし、**生田緑地及び周辺まちづくりをつなげる場とする**
- ・憩い・賑わい・防災の場として、**芝生広場などのオープンスペースを整備**する
- ・小田急電鉄（株）が進める向ヶ丘遊園跡地利用計画と調整し、**アクセス路を確保**する
- ・東地区へは、車のアクセスを想定する必要があることから、**駐車場を整備**する
- ・既存の樹林地等の自然環境の保全や景観へ配慮したうえで、**地区全体の魅力の最大化に向けて最適な配置を検討**する

※生田緑地ビジョンの内容を時点修正

既存の緑を保全するエリア
豊かな緑地の保全を誘導し、
周辺と連携した活用を図る



駐車場整備
緑に囲まれた駐車場を整備



**憩い・賑わい・防災機能としての
オープンスペース**
芝生広場など柔軟な空間を整備



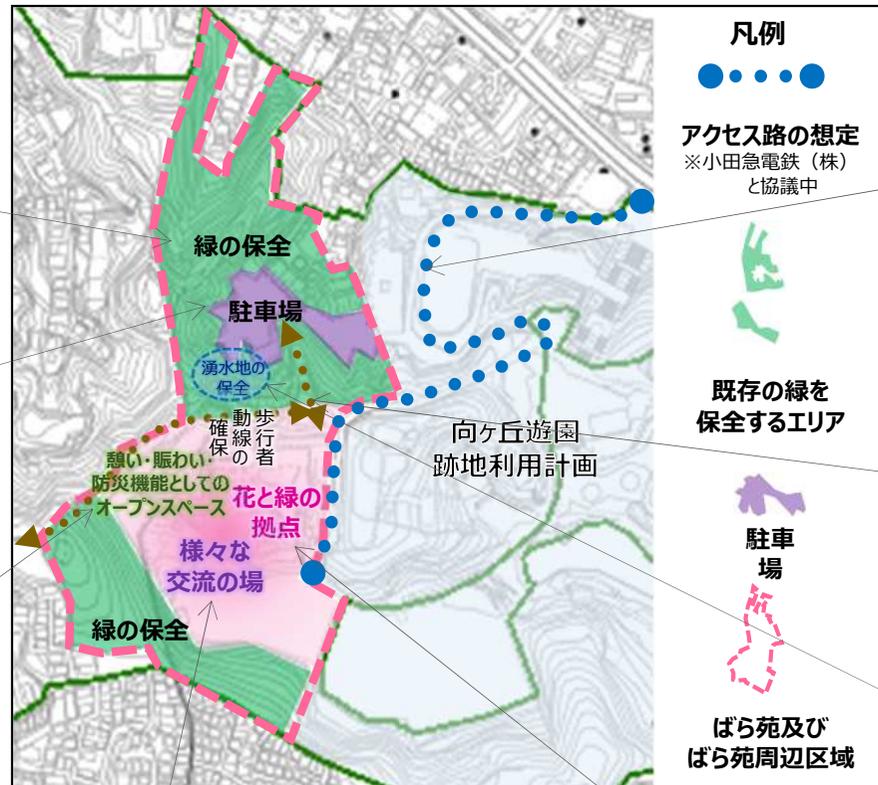
様々な交流の場
新たなミュージアム
と連携した、憩いや
賑わいの創出や地域コ
ミュニティの場を創出



花と緑の拠点
通年開放と共に、
四季折々の花々が
楽しめるばら苑を
再整備



生田緑地ビジョンで示す東地区（向ヶ丘遊園跡地他）ゾーニング図



凡例

● ● ● ● ● ●
アクセス路の想定
※小田急電鉄（株）
と協議中

■
**既存の緑を
保全するエリア**

■
**駐車
場**

■
**ばら苑及び
ばら苑周辺区域**

アクセス路
向ヶ丘遊園跡地利用計画と調整し、
通年利用できるアクセス路を確保



歩行者動線の確保
木漏れ日の中を散策できる
安全な散策路や階段を整備



湧水池の保全
湧水地を保全・活用し、生物
多様性を学べる場として整備



※生田緑地ビジョンの内容にイメージ写真を追加しています。

検討の背景

- 生田緑地ビジョン（R6.5策定）における東地区の考え方を踏まえ、新たなミュージアムの開設する場所を「生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリア」（約3.5ha）とし、**本エリアの魅力の最大化に向け、各施設の配置を含め一体的に検討**して行くこととしている。
- **再整備エリアの現状・課題や施設整備の配慮事項の整理などを踏まえ、施設配置の整理を行う。**

■ 生田緑地ビジョン（R6.5改定）

東地区の考え方として、「大半が未供用である東地区において、検討が進むばら苑の再整備、新たなミュージアム構想、向ヶ丘遊園跡地利用計画などの多様な魅力が自然の輪の中で融合し、生田緑地の価値・魅力の向上を目指します。」

とし、「エリア内の配置等については、既存の樹林地等の自然環境の保全や景観へ配慮したうえで、地区全体の魅力の最大化に向けて最適な配置を検討する」と位置付けている。



(3) 東地区内における拠点等

憩い・賑わい・防災機能としてのオープンスペース
市民とともに検討した生田緑地整備基本構想等において、ばら苑に隣接した区域については、オープンスペースを整備することが位置付けられており、憩い・賑わい・防災機能など多様な利活用が可能な空間として近年その価値が見直されています。
誰もが使いやすいオープンスペースの創出が、東地区の新たな魅力向上に必要不可欠となっています。

花と緑の拠点
生田緑地ばら苑は、「関東一のばら園」として昭和33(1958)年に開苑した小田急向ヶ丘ばら苑を向ヶ丘遊園跡地に併せて市民の声に応える形で市が引き継いでいます。現在、年間45日間の開苑期間に7万人が訪れる本市唯一の本格的な庭園となっています。今後の「ばら苑」が目指すべき3つの方向性

継承すべきしたい資源 - 貴重なばら園のコレクション - 歴史ある庭園や施設 - 市民協働でばら苑を育てる文化	「魅力が溢れ、誰もが好きになる」ばら苑の実現	直面する課題 - ばら苑の環境や環境の変化への対応 - ばら苑の老朽化、遺産としての魅力向上 - バリアフリーやアクセシビリティの確保などへの対応
---	-------------------------------	---

様々な交流創出の場
新たなミュージアム構想において、当該地が開設候補地として示されています。今後、正式な開設地として決定するため、新たなミュージアムの通行ルート等に係る調査・検討について、相互に関連・影響する事項として、本市と小田急電鉄（株）が協力して進めることを目的とし、「新たなミュージアムの開設候補地に係る協議に関する覚書」を小田急電鉄株式会社と締結しています。
新たなミュージアムの開設地となった際には、文化芸術を介し、緑地とまちをつなぐ、様々な交流創出の場としての役割が期待されます。

■ 新たなミュージアムに関する基本計画（R7.2策定）

<開設地について>

新たなミュージアムの開設する場所を、開設候補地である「生田緑地ばら苑隣接区域」（図中「駐車場」）から「生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリア」（約3.5ha）（※下図「検討エリア」のこと）を対象を広げ、本エリア内の各施設とともに一体的に整備していくことは、本エリア全体の価値・魅力向上が図られ、より魅力的な施設整備により、市民サービスの向上につながるものとし、詳細な施設配置を検討して行くとしている

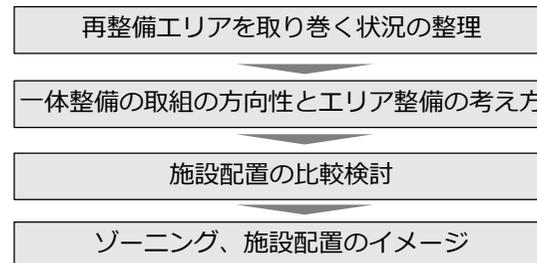


<再整備エリア内における施設配置について>

この約3.5haのエリア全体の空間的な魅力、誰もが気軽に利用できる環境などの視点も含め検討を進めることが必要です。そのようなことから、施設配置の検討は、●多様な魅力の融合と一体性によるエリア全体の価値・魅力向上、●自然・歴史・文化・芸術などとの出会いの場、●気軽に楽しく過ごせる快適な環境、●自然環境や周辺景観へ配慮した空間などに配慮しながら進めることが必要です。



(2) 検討の進め方



現地の状況・課題、施設整備の配慮事項
オープンハウス型説明会における市民の意見

現地の現状・課題

北側のばら苑(①)や南側の臨時駐車場(②)は周辺より低く、西側のばら苑西側広場(③)は高台の樹林地に位置し、生田緑地の豊かな自然に囲まれた地形となっています。



生田緑地ビジョンで示す東地区(向ヶ丘遊園跡地他)ゾーニング図



写真位置①

- 現ばら苑は再整備エリア北側に位置し、**日当たりが良い**
- 周辺の緑地も視野に入り、**「稜線」が確保されている**



写真位置②

- 臨時駐車場は、南側の樹林地の**日陰になりやすい**
- **水はけが良くない**
(写真は降雨終了後24時間経過)



写真位置③

- ばら苑西側広場は、丘の上で、**比較的平坦**

オープンハウス型説明会における市民の意見

集計期間：令和7(2025)年4～6月

開催：計6回

総票数：1,157票

選択肢：8項目



■アンケート結果

(1人最大3票投票 ※シール投票)

順位	アンケート内容	票数
1	新たなミュージアムに様々な利用者が利用できる施設の設置	277(24%)
2	ばらの育成環境の確保	247(21%)
3	自然環境や周辺景観への配慮	203(18%)
4	誰もが使いやすい一定の広さがあるオープンスペースの配置	162(14%)
5	ばら苑の有料化による魅力向上と持続的な運営の実現	152(13%)
6	ばら苑のまとまりのある空間の確保	148(13%)
7	来苑者が安心して居心地の良い環境を創出	132(11%)
8	一般来苑者用の駐車場の整備	113(10%)

実施場所：中原区・等々力(市民ミュージアム館謝祭)、多摩区・生田緑地(気球イベント)、川崎市・本庁舎前(アジアフェスタ)、宮前区・向ヶ丘出張所(向ヶ丘つながるサンデー2025)、多摩区・生田緑地(ばら苑)、多摩区・生田緑地(ばら苑)

施設配置の配慮事項：3つの施設について、主に下記について配慮することが必要

ばら苑

バラなどの植栽については、**日当たり、水はけの良い場所などの生育環境が重要**。

庭園文化として**まとまった空間**が必要であり、**通年開放、有料化**を踏まえた魅力向上に資する配置が必要。



オープンスペース

憩い・賑わいの空間として、芝生広場など、**日当たり、水はけの良い場所**が必要。

(防災機能なども想定し) **平坦かつ一定の広さ**が必要。



新たなミュージアム

施設建築物の規模が大きく**平場の確保が必要**であることや、大型車による展示品等の入出庫に係るスムーズな**車両の寄付き**、教育普及に関連した大型バスや身障者用の**駐車スペース**などの付帯した**施設も必要**。施設管理のため、**施設物周辺に一定の管理用スペースの確保**が必要。



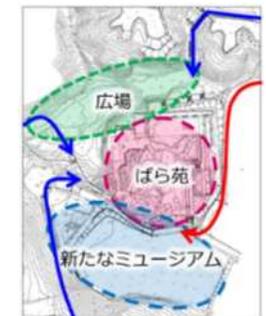
配置の検討

生田緑地内に立地する施設として、**施設整備の際に大規模造成や樹木伐採を最小限に抑えることを念頭に、複数の配置案を検討し**、寄せられた意見を踏まえ、ばらの育成環境を優先するなど施設配置による効果が発揮されるよう、地形・樹林・日照などの特性や回遊性、エリアの一体性に配慮しながら**検証**を行いました。

検証結果

バラの育成環境が最もよく、ミュージアムとの連携した共有空間の創出と共に、独立した景観づくりも可能で、造成等の環境への負荷が最も少ない「**現在と同位置のばら苑**」
「**臨時駐車場の位置に新たなミュージアム**」を最適地として、**施設配置等の具体的検証を進めます**。

現況と同位置のばら苑



現地の現状・課題、施設整備の配慮事項やオープンハウス説明会における市民意見なども参考に、一体整備の取組の方向性及びエリア整備の考え方を次のとおり整理しました。

【一体整備の取組の方向性】

再整備エリアの**特性（地形、樹林、日照など）**を考慮しつつ、再整備エリアにおいて**3つの施設の機能を発現**させるなど、市民サービスの向上やエリアの魅力の最大化に向けて、**一体的に取り組むことより、効果的・効率的な整備と機能の早期実現を図る。**

【エリア整備の考え方】

豊かな自然や文化・芸術に包まれた、「憩い・賑わい・交流」
様々な人々をつなげる場を創出します。

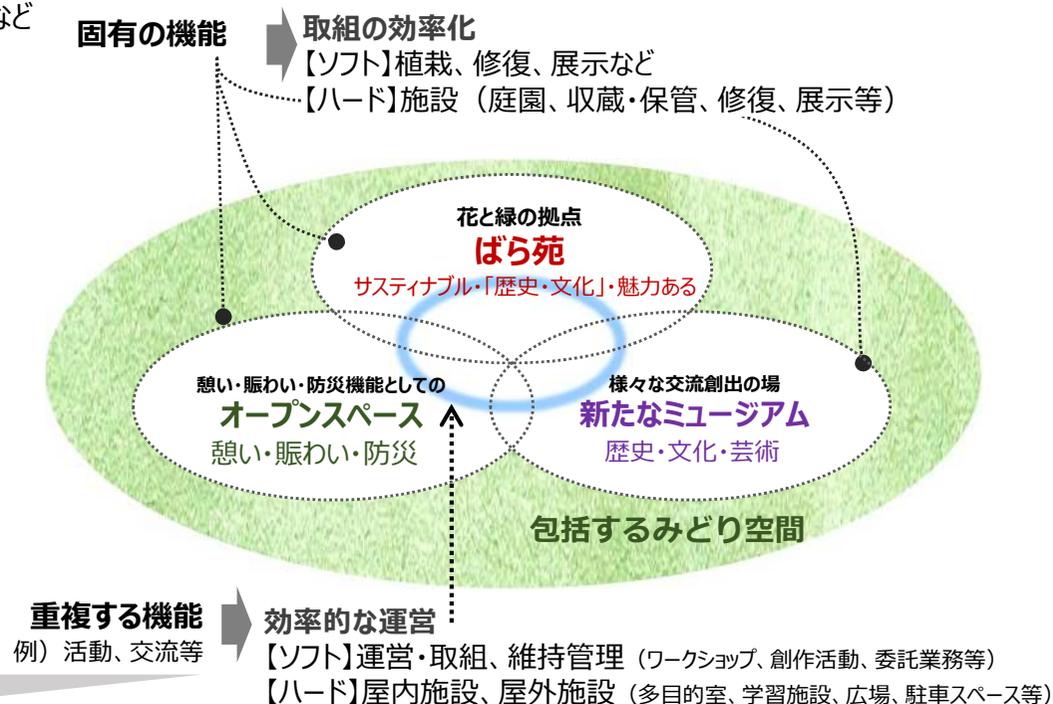
地域の魅力向上を目的に、ばら苑、新たなミュージアムとの連携を重視し、**動線・景観・機能面での相乗効果を意識した整備・配置を推進**します。また、**重複する機能については、隣接施設と協力して管理・運営を行い、施設の効率的な運営を図ります。**

【共通の考え方】

1. 周辺景観との調和のとれたデザイン整備
案内板などのデザインを統一や自然素材や地域特有の素材を用いるなど、**視覚的な調和を実現し、建物の緑化や、自然の特徴を生かした外構を整備**する。
2. 環境保全と持続可能性の検討
環境に優しい設計を採用し、**再生可能エネルギーやグリーンインフラ施設を導入**。

【重複する機能の考え方】

1. 共有エリアの活用
施設間は、互いの価値を高める機能空間として、オープンスペースを整備し、**地域住民や来訪者の交流促進や賑わい創出を図れる場所を整備**する。
2. アクセスと動線の整備の検討
施設へのスムーズなアクセスを目指し、**歩道や車両・駐輪等の共有や、施設間のバリアフリー設計を導入し、すべての人が快適に利用できるよう整備**を行う。
3. 共通施設・サービスの設置の検討
休憩所や案内施設を共通で設置し、**施設間の情報提供やサービスを一元化。トイレや飲食施設も共通化して利便性を向上**。
4. 共通管理システムの導入の検討
施設間で共通の管理システムを導入し、**維持管理やデータの一元化を行い、効率的な運営を実現**。



サインの共通化



自然素材や国内産材の活用



壁面緑化



ソーラー式デジタルサイネージ



レインガーデン



交流促進の場

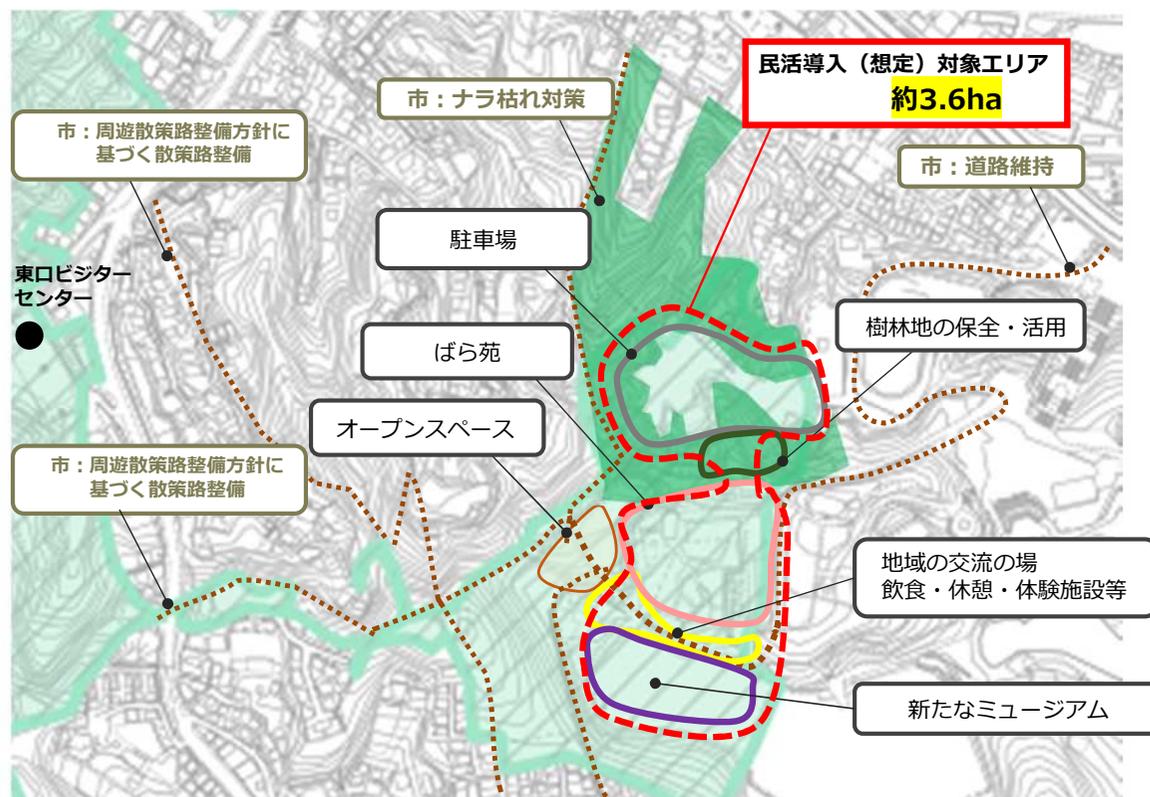


効率的な維持管理

8-1. 整備エリアについて 【更新】

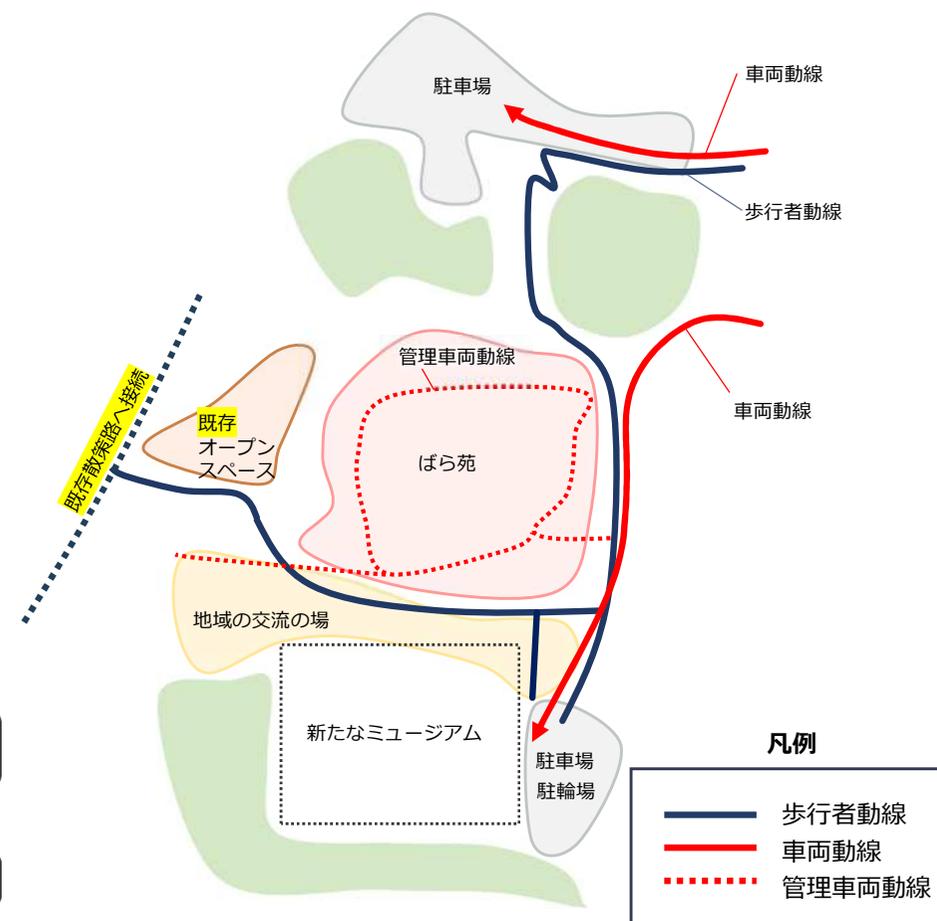
生田緑地ビジョンにおける東地区エリア【花と緑の憩い・賑わい・交流ゾーン】ばら苑及びばら苑周辺区域(7.4ha)の内、**ばら苑、新たなミュージアム、駐車場、管理用動線、樹林地等を含めた約3.6ha**を民間事業者の参画を想定した整備、運営についての検討を行います。

民間活力の導入に向け、樹林地で発生しているナラ枯れ対策については、民間事業者の参入までに**現在発生を確認している危険樹木等の対応や、また、散策路の整備については、既定の散策路整備方針に基づき、市が主体となって整備することを予定**しています。



8-2. 整備エリアの動線・機能 【新規】

ばら苑と新たなミュージアムについては、両施設が連携し相互補完できるよう、**敷地の効率的な利用を図るとともに、来苑者にとって分かりやすく快適な動線計画および機能配置**とすることを検討します。また、**ばら苑とミュージアムの緩衝エリアは、地域の交流の場**として具体的な取組の検討を進めます。



※動線の形状については、今後の検討により変更となる可能性があります。

8-3. 連携する周遊散策路について

施設間の連携強化と回遊性及び利便性の向上を目的に「**生田緑地周遊散策路整備方針**」を策定しています。予定されている周遊散策路9ルートの内5ルート（以下図示）は、ばら苑、新たなミュージアムにつながる計画となっており、施設整備の進行に合わせて「**生田緑地周遊散策路整備方針**」の見直しと、**散策路の再整備を段階的に進めていく必要**があります。

生田緑地周遊散策路整備方針図【抜粋】



ネットワークのルート				未整備のルート(※4ページ参照)	
番号	区間	区分	ルート概要	距離(歩)	整備対象区間
A	東口 ~ 西口	メインルート	生田緑地の主要な施設が立地するルート	①	西口連絡ルート 330
B	中央広場 ~ 西口	メインルート	現在の中央広場と西口を結ぶルート	—	整備済
C	東口 ~ 管理事務所	メインルート	排形山と東口・管理事務所を結ぶルート	—	整備済
D	中央広場 ~ 岡本	サブルート	中央広場からつつし山をおとる散策路	—	整備済
E	管理事務所 ~ 排形山	サブルート	ホテルの裏などをめぐる散策路	—	整備済
F	排形山 ~ 北口	サブルート	排形山と北口を結ぶ展望つきの散策路	—	整備済
G	東口 ~ ばら苑	メインルート	今後、中央地区とばら苑地区を結ぶ主幹線	②	中央地区・ばら苑ルート 330
H	ばら苑 ~ F/F	メインルート	ばら苑と藤子ミュージアムを結ぶルート	③	ばら苑・藤子ミュージアムルート 400
I	中央広場 ~ 初山	メインルート	中央広場と初山地区を結ぶルート	④	初山ルート 250
J	初山 ~ 西口	サブルート	ゴルフ場を迂回する散策路	⑤	ゴルフ場外周ルート 450
K	東口 ~ ばら苑	サブルート	現在のばら苑裏口に通じるルート	⑥	東生田2丁目西ルート 480
L	ばら苑 ~ 向ヶ丘遊園方面	サブルート	向ヶ丘遊園方面とばら苑を結ぶ最短ルート	⑦	東生田2丁目東ルート 480
M	ばら苑 ~ F/F	サブルート	ばら苑地区をめぐる散策路	⑧	ばら苑東ルート 2,650
N	初山 ~ 向ヶ丘遊園方面	サブルート	向ヶ丘遊園方面の中央地区を結ぶ最短ルート	⑨	初山北ルート 280
合計					5,230

生田緑地周遊散策路整備方針の概要
平成25年9月策定

(内 容)
 これまで生田緑地の構造整備は、ルート毎に整備を想定してまいりました。今後は、平成25年3月に策定された「生田緑地ビジョン」に基づき、路線と主要ルートを設定して、未整備が有る区間の自然環境を考慮できるとともに、全体の回遊性と利便性を向上させ、訪客間の連携を促進し生田緑地全体の魅力を高めるよう、周遊散策路の整備を推進いたします。

(整備方針)
 生田緑地ビジョンの基本方針である「施設の魅力を高める」における施策の基本方向「安全・安心・快適に利用する」に基づき、以下の整備方針により、周遊散策路を構築して生田緑地全体の施設間の連携強化と回遊性及び利便性の向上を図る。

1. 周遊散策路整備の考え方
1. 緑地内回遊の確保：訪客者の安全性と周辺住民への影響を軽減させるため、ルート改訂の上に対応しやすい山奥の見り経路内で建設することとする。ただし、メインルートと併走するサブルートの場合は公道利用も可とする。
 2. 憩いを結ぶ憩いの確保：緑地内の主な植栽を柱とした休憩できる休憩所を配置し、施設間の連携を図る。
 3. アクセスの向上：施設へのアクセスは、駅やバス停、駐車場からスムーズにアクセスできるように配慮を促す。
 4. 魅力ある園路づくり：生田緑地の歴史・文化を生かし、訪客者が単一の風景を楽しむだけでなく多様な楽しみが得られるようなルートを選定する。
 5. 快適な園路づくり：生田緑地が自然豊かな環境であるため、バリアフリーへの配慮や、休憩ポイントの適切な設置を行うとともに、多岐岐となるべく美しい園路で結ぶようなルートを選定する。
2. 周遊散策路整備の進め方
1. 連携強化・回遊性向上：周遊散策路は、施設間の連携を図るメインルート及びそれ以外で回遊性を高めるサブルートによる構築を臨時的ながら、既存ルートを活用するとともに、生田緑地内における施設間の連携強化や回遊性向上の観点で適切なルートを設定し、整備を推進する。
 2. 利便性向上：周遊散策路については、休憩ポイントの整備やサインの設置もあわせて取り、生田緑地の利便性向上を図る。
 3. 段階的整備：準備にあたっては、各ルートの建設の制約状況に、整備予定区間、善後検査区間、植栽区間、事業調査区間に分け、それぞれ事業実施に応じて段階的なルートの整備を推進する。

生田緑地ビジョンアクションプラン

令和7年5月策定

(1) 生田緑地周遊散策路整備方針に基づく整備

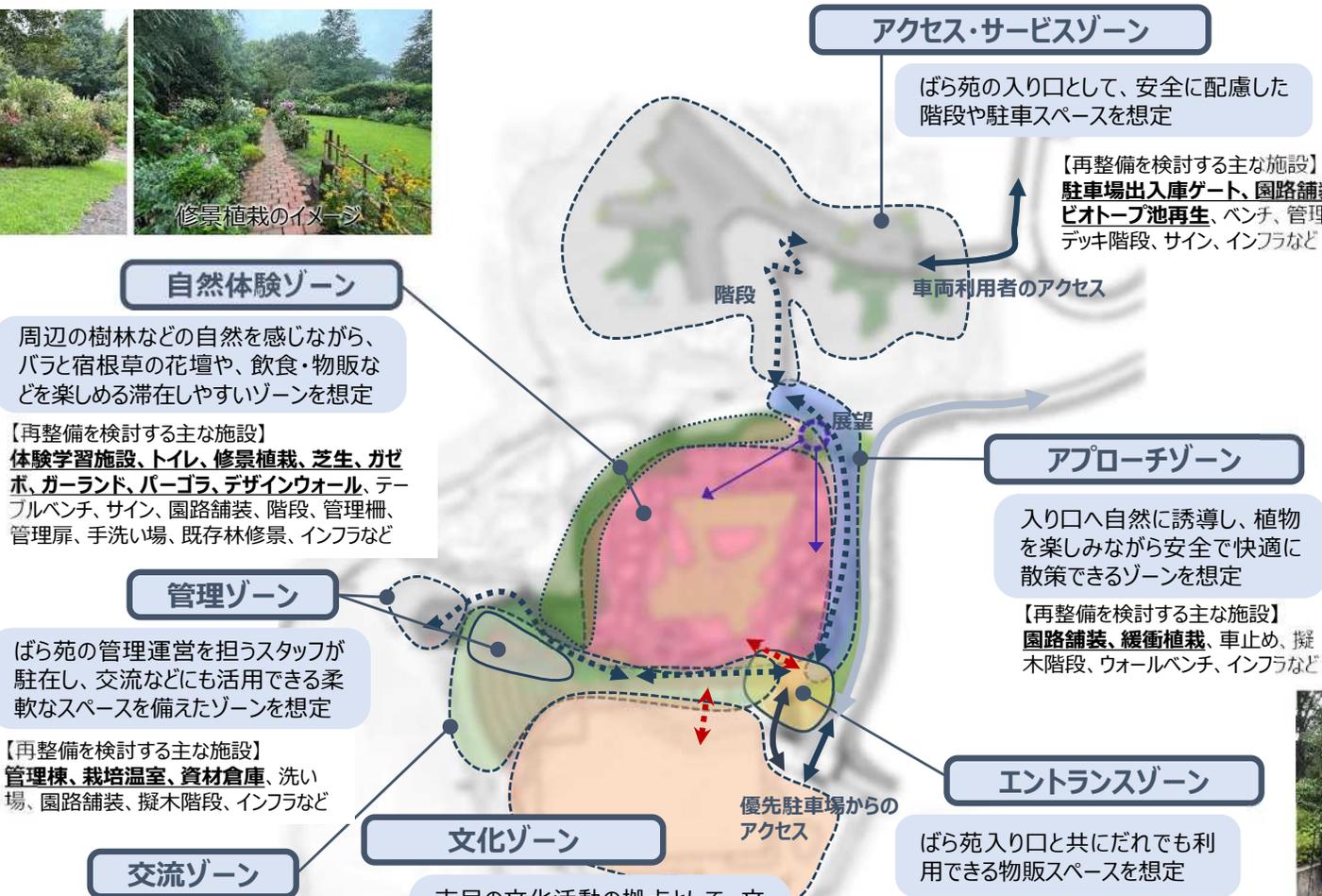
① 周遊散策路の整備を進め、回遊性の向上を推進します。
 市内最大の公園緑地の生田緑地を訪れる人々が、自然を楽しみながら効率的かつ快適に移動できるよう、回遊性の向上に向けた取組を推進します。
 また、ばら苑の再整備計画も踏まえた生田緑地全体を散策できるルートを検討し、生田緑地周遊散策路整備方針の見直しを行います。

(2) 生田緑地周遊散策路整備方針に基づく整備

実施年度	R7	R8	R10	R11	R12	5年間の目標	主体
① 方針の策定	完了	完了	完了	完了	完了	完了	保
② 整備	完了	完了	完了	完了	完了	完了	保

8-4. ゾーニングの考え方

豊かな自然に囲まれた立地特性をいかし、地域の方々にとって日常的に利用できる交流の場であるとともに、市外からも足を運びたい魅力ある場の創出を目指します。なお、この内容は現時点での行政としての考え方を示すものであり、民間事業者との対話を通じて、より創意工夫に富んだ提案が生まれることを期待しています。



自然体験ゾーン

周辺の樹林などの自然を感じながら、バラと宿根草の花壇や、飲食・物販などを楽しめる滞在しやすいゾーンを想定

【再整備を検討する主な施設】
体験学習施設、トイレ、修景植栽、芝生、ガゼボ、ガーランド、パーゴラ、デザインウォール、テーブルベンチ、サイン、園路舗装、階段、管理柵、管理扉、手洗い場、既存林修景、インフラなど

管理ゾーン

ばら苑の管理運営を担うスタッフが駐在し、交流などにも活用できる柔軟なスペースを備えたゾーンを想定

【再整備を検討する主な施設】
管理棟、栽培温室、資材倉庫、洗い場、園路舗装、擬木階段、インフラなど

交流ゾーン

市民の文化活動の拠点として、文化芸術に触れ、様々な活動主体とのつながりや交流を育む場を想定

【再整備を検討する主な施設】
飲食施設、園路舗装、ベンチ、管理柵、修景植栽、サイン、インフラなど

文化ゾーン

市民の文化活動の拠点として、文化芸術に触れ、様々な活動主体とのつながりや交流を育む場を想定

アクセス・サービスゾーン

ばら苑の入り口として、安全に配慮した階段や駐車スペースを想定

【再整備を検討する主な施設】
駐車場出入庫ゲート、園路舗装、ビオトープ池再生、ベンチ、管理柵、デッキ階段、サイン、インフラなど

アプローチゾーン

入り口へ自然に誘導し、植物を楽しみながら安全で快適に散策できるゾーンを想定

【再整備を検討する主な施設】
園路舗装、緩衝植栽、車止め、擬木階段、ウォールベンチ、インフラなど

エントランスゾーン

ばら苑入り口と共にだれでも利用できる物販スペースを想定

【再整備を検討する主な施設】
ゲート物販施設、園路舗装、緩衝植栽、管理柵、管理扉、インフラなど



9-1. 施設間の高低差と造成について



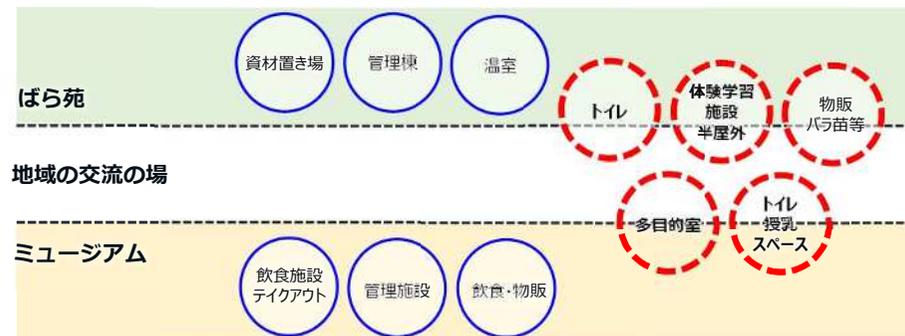
ばら苑に隣接して新たなミュージアムが整備されると、**両施設の現況地盤には約4mの高低差があります。回遊性の向上および移動の円滑化を図るため、施設間のレベル調整が必要**となります。また、その際には、**造成土の有効活用も視野に入れる必要があります。**

9-2. 機能分担と共用施設の活用可能性

両施設に必要とされる施設のうち、**トイレ、授乳室、講義やワークショップなどに活用する多目的室、屋外体験施設など、共用が可能な施設は、両施設で相互に活用し合うことを想定**しており、**整備コストの削減が期待**できます。

しかしながら、**管理エリアは取り扱う対象や求められる環境条件、管理者の業務内容は大きく異なり、ミュージアムは美術品保護のために土壌・水分・生物・薬剤等の持ち込みを厳しく制限**している一方で、ばら苑管理施設ではこれらの要素が**日常的な管理対象**となっています。このため、**両施設は管理空間やバックヤードを共有することは難しく、明確な機能分担や動線区分が求められます。**

● 同レベルにある両施設の機能分布



性質上、個別の建設が相応しいもの ○

機能の共有をすることで施設の縮減が検討できるもの ⊖

参考文献：文化庁『設置・管理ハンドブック』（H27年）

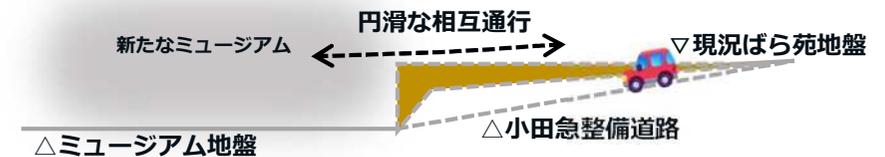
現状

約4mの高低差があり、造成によるレベルの調整を行わないと一体整備後の円滑な行き来が確保されない。



整備後

新たなミュージアムの2階エントランス空間とばら苑とのスムーズなアクセスを確保できる。



主なばら苑施設及び共用施設の想定規模（案）

※今後の市民意見の聴取や民間事業者との協議によって変更するものです。

現況施設数量				機能	新たなばら苑で求められる規模（想定）		
区分	数量	単位					
ばら苑	12,000	m ²	植栽地、園路、芝生広場、ベンチ、テーブル等	12,000	m ²		
地域の交流の場							
便益施設	①	ゲート物販施設	-	m ²	ゲート、ゲート事務所、物販店舗、誰でもトイレ、ポーチ	50	m ²
	②	飲食施設	-	m ²	厨房、喫茶室、ポーチ	65	m ²
	③	体験学習施設（半屋外）	-	m ²	四阿、土間打ち（30人程度）	100	m ²
	④	トイレ	66	m ²	誰でもトイレ1室／女子トイレ3室（うち乳幼児連れ配慮便房*1室）／男子トイレ1室（乳幼児連れ配慮便房*1室）／小便器3基／SK 男女それぞれ1箇所等 ※これに加えてばら苑内にもトイレ設置を想定	55	m ²
管理施設	⑤	管理棟	151	m ²	事務所、給湯室、スタッフトイレ、更衣室、倉庫、ベビールーム、打合せスペース	200	m ²
	⑥	ボランティア休憩室	50	m ²	ボランティア休憩室		m ²
	⑦	栽培温室	150	m ²	花苗等、販売スペースとしても活用可能	100	m ²
	⑧	資材倉庫	温室で代用	m ²	倉庫	30	m ²

10-1. コンセプト、方向性

これまでに検討してきた3つの方向性を踏まえてコンセプトとテーマを整理し、民間事業者や市民に向けて**市が示したい将来像を伝えるためのコンセプトシートを検討**します。その際、有識者の皆さまからいただくご意見も取り入れながら、内容の精度を高めてまいります。

3つの
方向性

1

「**サステナブル**」なばら苑
持続的な管理運営、種の保存、
自然循環に取り組む

2

「**歴史・文化**」拠点となるばら苑
ばら苑が培ってきたこれまでの歴史を継承する
とともに、アート・庭園文化の拠点として整備

3

「**魅力ある**」ばら苑
誰もが親しみ、関わりたくなるばら苑と
ミュージアムが一体となったエリアを創出

コンセプトシートの作成 ※作成中であり、表現などは仮のものです。

人とつながる

まわり、巡る。 生田緑地ばら苑

このばら苑は、自然・文化・暮らしが行き来し、人々の心にやさしい循環が生まれる場所です。

ここで過ごした時間が、訪れた人の日常をやさしく変えていく。

——それが、「まわり、巡る ばら苑」の目指す姿です。

生きものと出会う

みどりを知る

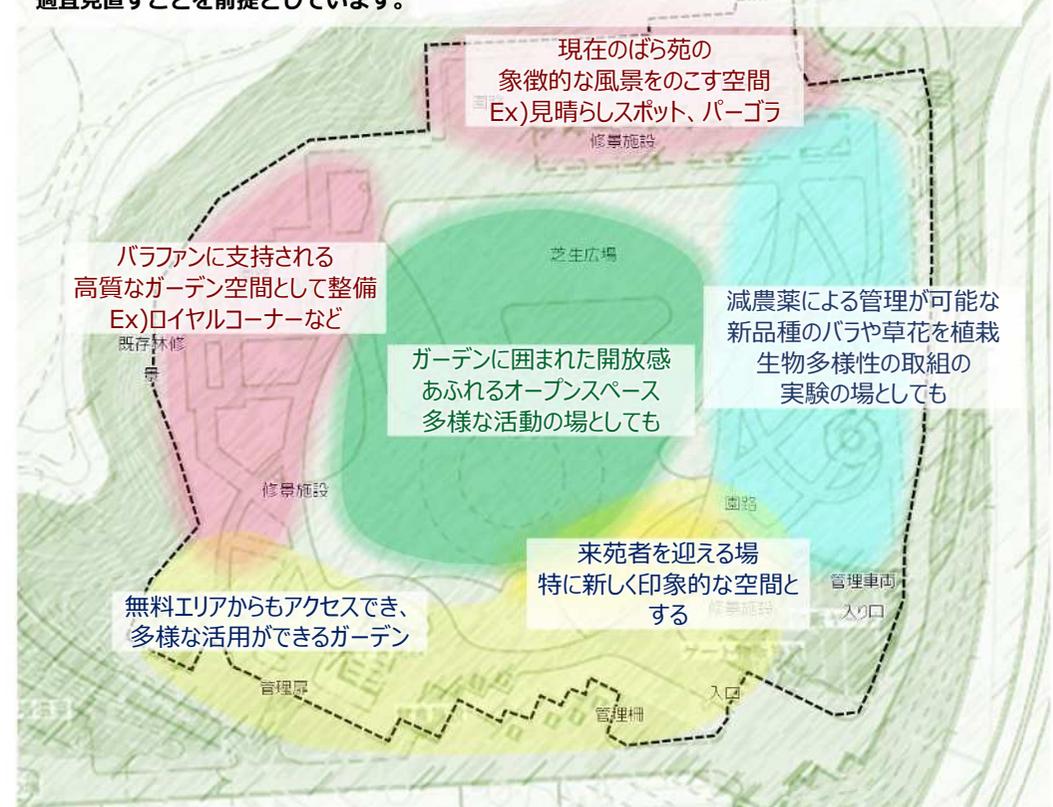


10-2. ばら苑整備イメージ

既存の芝生やばらを中心とした空間イメージを継承しつつ、通年での開放に対応した「ばらと宿根草を組み合わせた花壇エリア」や、**共有エリアからも利用可能な飲食・物販機能など、多様な利用や滞在を促す要素を加え、空間構成・維持管理性の強弱をつけた構成**としています。
(内容はあくまで現時点での想定であり、今後のサウンディング結果や専門家の御意見等を踏まえ、適宜見直すことを前提としています。)

区分	機能	
基盤整備工	① 敷地造成工	盛土(ミュージアム建設残土使用、平均盛土厚80cm)
	② 植栽基盤工	修景植栽(バラ)+緩衝植栽 植栽基盤厚800(客土+土壤改良)、芝生地植栽基盤(植栽基盤厚150)
施設整備工	① 園路広場工	透水性脱色アスファルト舗装、透水性アスファルト舗装、階段(擬石平板階段)、袖壁(H=400)、縁石A(レンガ地先縁石)、縁石B(レンガ縁石H=50)
	② 修景施設工	パーゴラ、ガーランド、デザインウォール、ガゼボ、支柱類
	③ 休憩施設工	背なしベンチ、可動ベンチ、サークルベンチ、テーブルベンチ、ウォールベンチ
	④ 管理・便益施設工	体験学習施設、トイレ(ZEB対策)、水飲み(手洗い場) 管理柵(メッシュ、H1.8m)、管理柵(縦格子、H1.8m)、ゲート扉(縦格子、W6.0m、H1.8m)、管理扉(メッシュ、W3.0m、H1.8m)、管理扉(メッシュ、W4.0m、H1.8m)、手すり
	⑤ サイン施設工	ばら苑総合案内サイン、ガーデン名案内サイン、植物名版
植栽工	修景植栽(バラ、その他植物)、既存林(雑木林)修景	
設備工	配管(自動灌水設備、土工含む)、雨水・汚水排水設備(土工含む)、配線配管(照明、催事用電源盤、土工含む)	

※配置やゾーニングはイメージであり、今後のサウンディング結果や専門家の御意見等を踏まえ、適宜見直すことを前提としています。



10-3 .ばら苑の展示手法について

- **ばら苑のテーマや季節に合わせたコンテンツの提供**
 - ・ 季節に合わせた飾りつけ・イベント等の実施で年間通して楽しめる場とする。
 - ・ 飲食施設などで**庭園のコンセプトに合わせたメニュー・グッズや季節限定メニューの提供**などを充実させ、何度も訪れたいくなる仕掛けを検討する。
- **多様性に富んだ庭園空間の創出**
 - ・ 常に新たな感動を与えるような、**バラを主とした庭園とする。**
 - ・ **バラの各品種に合わせた植栽や多様な植物との組み合わせ**、新鮮な配置レイアウトや見せ方などを検討する。
 - ・ バラのための植物園的なゾーンと宿根草と組み合わせたガーデンゾーン、旧ばら苑の意匠を継承した庭園ゾーンと宿根草との混植をモチーフとしたガーデンゾーン等、**数か所のゾーンを整備**する。
 - ・ 現在活用されていない、**斜面部分や壁面等**も活用し**立体的な植栽を行う**
 - ・ 有料エリアを囲う柵は、**圧迫感を感じさせない仕様とし、前面を生け垣等で和らげる**こととする。
- **季節に合わせたイベントや非日常を感じられるイベントの企画・実施**
 - ・ 体験型ワークショップや**来苑者参加型イベントや季節感を感じるディスプレイなどの実施**を検討する
 - ・ ドライフラワーづくり、香水づくり等のワークショップ、ばらの育て方等講習会等の**体験型コンテンツの充実**
 - ・ **季節に合わせたイベントの実施**（バラにとらわれない花の開花に合わせた開苑テーマの設定、ハロウィンやクリスマスに合わせた装飾、フォトスポットの設置等）**による魅力づくり**を検討する。



多様な植物との混植
はままつフラワーパーク



完成度を高める管理
浜名湖ガーデンパーク



見て楽しめる提供手法
いばらきフラワーパーク



季節に合わせた飾りつけ
横浜イングリッシュガーデン
(出典：公式HP)



アートの休憩施設
彫刻の森美術館



アートを自然の中で楽しむ
横浜市こどもの国



ローズガーデン
ウエディング
国営越後丘陵公園



ハロウィン・ディスプレイ
横浜イングリッシュガーデン(出典：公式HP)



ワークショップスペース
いばらきフラワーパーク



新鮮な配植デザイン
浜名湖ガーデンパーク



構造物とのコンビネーション
はままつフラワーパーク

継承するバラ（品種・株）の検討

本苑は、開苑当初より多様なバラを収集・育成し、現在では約805品種3,296株を保有する、品種数の多さを特徴としたばら苑となっています。一方、開苑からの経過年数に伴う株の老朽化や、今後の持続的な維持管理を見据え、**歴史的価値の継承と、管理性・サービス性の向上を両立させた保存・更新の検討**が求められています。

継承するバラ（品種・株）の基本的な考え方(R7.7月部会での提示)から更新

1. 基本方針（のこすバラ・導入するバラの考え方）

老朽化により移植が困難な株は**更新を基本**としつつ、貴重な品種については移植可能な健全株の株上げによる外部圃場での育成や、移植が困難な株に対する接ぎ木等により保存を行い、将来的には新規導入を含め**おおむね約800品種規模の持続可能なばら苑の構築を目指します。**

- (1) 市場流通の有無による整理 ※市場にない：失われると未来に伝えられない資源である
- ・市場に流通している品種
⇒原則として **新規購入** とする。
 - ・市場に流通していない品種
⇒以下の基準に基づき保存を検討する。

(2) 市場に流通していない品種の取扱い

- ・2000年以前作出の品種
⇒「**希少品種**」と位置づけ、**接ぎ木での保存**を基本に検討する。
- ・2000年以降作出の品種
⇒時代背景により評価されにくかった品種のうち、ガーデンのテーマ、ストーリー性に合致するものに限り、**接ぎ木での保存**を検討する。

専門家意見等の反映

(3) 整備にあたっての前提条件

土壌改良の必要性や再整備に伴う造成高の調整等により、**既存地盤高での株の存続・継続が困難であることから、整備のタイミングにおいて、基本的に移植、接ぎ木による更新・保存を行うものとする。**

●生田緑地ばら苑の保有する株の市場流通

市場流通のある品種	658品種
市場流通のない品種	191品種
ばら苑内の全品種数	849品種

※「市場流通のない品種」とは現在の市場カタログに掲載されていない品種として整理しています。

2. 希少品種以外でも「のこす」ことを検討する品種

希少・貴重種に該当しない場合でも、**以下に該当する品種・株については保存を検討します。**

- ① **ロイヤルコーナー由来の品種**
・ロイヤルコーナーに植栽されており、**生育状態が良好な品種・株**
- ② **他園等からの譲渡・寄贈株**
・歴史的・社会的背景を持つ品種・株
例：東日本大震災復興祈念として、育種家ギョー家より寄贈された「絆」
- ③ **生田緑地ばら苑の歴史を象徴する品種**
・開苑時に協力を得た団体・組織との縁を示す品種
例：ひらかたパーク（京阪電鉄）との関係を象徴する **京阪園芸作出品種**、生田緑地ばら苑に関わった育種家による作出品種
- ④ **バラの歴史を象徴する品種**
・歴史的意義の高い品種・株
例：終戦と同時に発表された「ピース」、世界バラ会議 歴代の**殿堂入りバラ**

市民意見等の反映

3. 移植・接ぎ木の判断基準

(1) 移植対象とする株

次頁「市民意見・専門家意見の反映について」参照

- 以下すべてを満たす、または価値が高いと認められるもの
- ・寄贈株等で「**株そのものの価値**」があるもの
 - ・希少品種・マイナー品種のうち、**生育状態が良好な株**

(2) 接ぎ木対象とする株

- ・寄贈株等で株としての価値が認められるもの
- ・希少品種・時代背景により評価されにくかった品種のうち、**生育状態が不良なもの**

4. コストを踏まえた株の限定的保存

- ・新植株の購入費：約2,000～3,000円/株
 - ・移植後、工事期間中に育成するための維持管理費：約3,000円/株
- ⇒これらのコストを考慮し、**保存対象は「品種」ではなく「特定の株」に限定することが望ましい。**

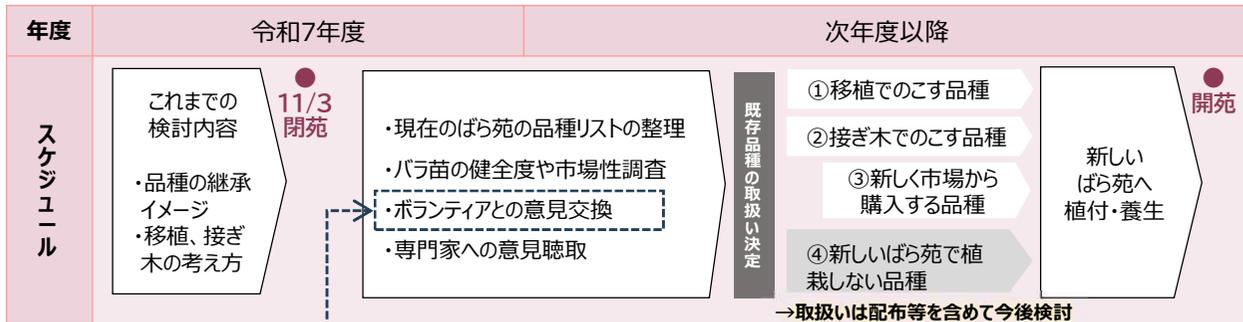
5. 新規導入品種の検討方針（サービス向上・管理性向上）

以下を目的として、新規品種の導入を検討する。

- ① **新しいばら苑の庭園コンセプトに合致する品種**
- ② **耐病性が高く、維持管理がしやすい品種**

継承するバラ（品種・株）の検討 - 市民意見・専門家意見の反映について

継承するバラや新たに導入するバラの株の選定について、バラの専門家やボランティアの方々等のご意見を伺いながら進める場を作り、次世代に残すべき品種の考え方等について対話しながら進めます。



今後、本ばら苑のコレクションや株の継承に貢献してきたばら苑ボランティア等に対して全3回（予定）のワークショップを実施し、「大切にしたいバラの品種」等についてお話を伺いながら、最終的に要求水準書の一部となる品種リストや、反映する内容を取りまとめます。

●秋のばら苑開苑時等で頂いた意見

- ✓ 魅力的な体験プログラムがあると良い
- ✓ 健全、不健全を問わず様々な方法で大事に活用して欲しい
- ✓ 健全な株は、なるべく残して欲しい
- ✓ 活用しない株は、公園の団体や市民に譲渡等を検討して欲しい
- ✓ 今後、活用する品種について意見を寄せる場を作って欲しい
- ✓ ばら苑内には、品種としてありふれていても、葉の形状や模様などが珍しいバラもある

●ワークショップ実施イメージ(案) ※今後変更する可能性があります

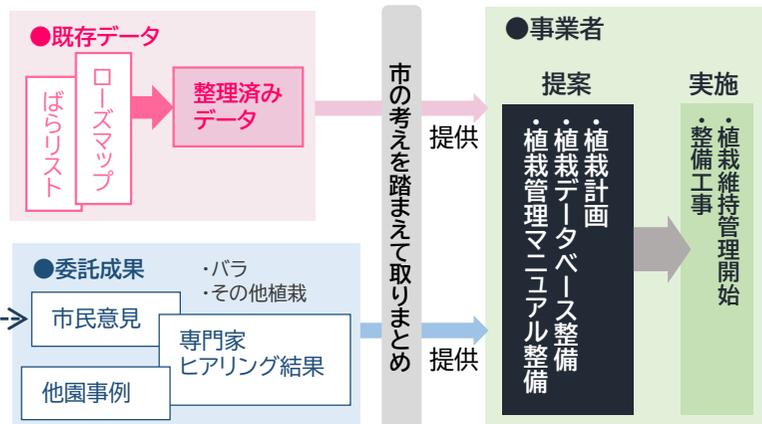


提供
現在のばら苑の位置図
品種リストの整理

提供
品種リスト
バラ苗の健全度の考え方
市場性調査の結果

成果
要求水準書の参考資料へ
既存バラの接木、移植へ

■植栽の育成管理手法 検討の流れイメージ



新しいばら苑では、**バラのほか多様な植栽を織り交ぜる計画**とすることにより、バラをより魅力的にみせる空間を目指します。これまでに蓄積してきた**バラのデータや、その他の植栽についてもヒアリング等を通して得た御意見や知見を活かしながら、適切に整備し、育成管理できるような手法についても、併せて事業者提案を求めることとします。**

バラの株の取扱いの事例

- 他都市や他施設の再整備時の株の取扱いについては、**各施設の育成環境や育成状況に応じて様々な対応がとられています。**

●広島県福山市 ばら公園

- 「ばらのまち」福山市では毎年春季にばら苗配布を実施しているが、2025年は第20回世界バラ会議の大会開催年となることから、秋季にもばら苗配布を記念事業として実施した。
- ばら公園では、当初280品種5500株のばらがあり、再整備後、約670品種約7000株を有する公園として整備を行った。再整備に当たっては新規株も購入により導入している。
- 接ぎ木等による苗生産技術を有していたため、株や品種の継承に大きな技術的課題はなく、現存していたばらから穂木を採取し、接ぎ木によって苗を生産し植栽した。
- 使用しない株でも単に廃棄した株はなく、市民への配布、公共施設への移植、デニム生地などへのアップサイクルや堆肥化するなどの取組を行った。

ばら公園
(リニューアル後)

「ばら公園のばらを植えよう！」事業

- 福山市のばら公園における2024年の植栽のリニューアルに向けて、2023年に実施。ばら公園のばらを市民の自宅や地域に植栽することにより、2025年の世界バラ会議開催を見据え、ばらのまち福山をみんなで盛り上げることを目的とした。
- 市内に住所を有する個人（世帯）又は市内に所在する団体・事業所を対象として、地域に植栽することを条件に、ばら公園のばらの掘りあげ・運搬・地域への植栽まで一律で自身でおこなってもらう。
- 責任を持って育ててもらうため、報告書の提出や市の現地確認に対する承諾を義務付けた。



「ばら公園のばらを植えよう！」事業 実施の様子

●東京都練馬区 四季の香ローズガーデン

- 旧ローズガーデンに**土壌不良があったことや根頭癌種病をもっている株が多い等の課題**があったため、再整備の際に**配布や移植・接ぎ木などの対応が不可能と判断**した。また、旧ガーデンに生育していたバラは**農薬の多用を前提とした古い品種**が多く、小さい子供への配慮から農薬使用を忌避する声もあがり、減農薬品種に入れ替える必要があったため、**すべてを新しいバラ苗に入れ替え植栽**した。

バラの株の移植・活用については、**接ぎ木による苗の生産を可能とする環境整備の課題、土壌の状況や株本体の病気罹患の有無・リスクへの対応などについて、専門家の御意見を考慮して決定**する必要があります。

バラ育成管理の現状

- 現在のばら苑のばらリストやローズマップは、**ばら苑ボランティアの有志メンバーにより作成され、引き継がれ、更新されてきました。**
- ローズマップは**地図ソフトを用いた一株ごとのマッピングデータ**があり、**圃場やオールドローズコーナーも含めた苑内全域を対象として記録**されています。また、「赤本」「青本」と呼ばれる、ローズマップを紙印刷してまとめたファイルも継承されています。
- ばらリストは**名称、系統、色、作者や香り等を一株ごとに記録**しており、それぞれ**個体番号が振られ、マッピングデータと対応**しています。

●ばらリストとローズマップの効果

- ローズマップはどの植栽樹にどの品種が何株植えられているかが**視覚的に分かる**ようになり、**ばらリストとも整合が取れている。**
- ばらリストは**株ごとの情報や香りや植付時期等まで詳細に記載**されており、**データベースとしても活用できる情報量**となっている。

●ばらリストとローズマップの課題

- リストとマップを連携していない**ため、枯死や新植等があった場合はそれぞれのデータを編集する必要がある。
- 地図ソフトの互換性が低く、他のデータ形式へのアウトプットが不便**である。
- ほぼ**固定の有志メンバー**により更新されてきたため、**誰でも更新しやすい環境**になっていない。



ローズマップ

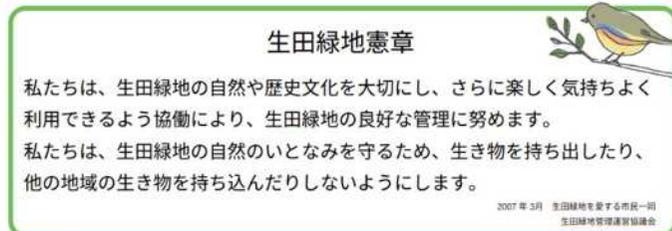
登録名、系統、色、作出年、作者、国名、出典等	登録名	系統	色	作出年	作者	国名	出典等
P001-19-085	C	A2	ザルディキブ・ザレク	1	The Lady of the L.S.	Ip	2014 Austin, David GBR: カタログ
P001-21-122	A2	A2	ジ・オブライント・ワンブロー	1	The Albrighton Ra S	Ip	2013 Austin, David GBR: Austin第7版カタログ
P001-08-219	つる	A2	ジャンネット	4	Janet	S	mp 2003 Austin, David GBR: プレート
P001-08-259	A2	A2	ジャンネット	4	Janet	S	mp 2003 Austin, David GBR: プレート
P001-18-076	A	A2	スノーグース	2	Snow Goose	S	w 1997 Austin, David GBR: p-32: AI Spoon
P001-08-259	つる	A2	アーシング・ジョージア	4	Teasing Georgia	S	yb 1998 Austin, David GBR: p-28: AUS Charles Au seedling
P001-20-219	つる	A2	アーシング・ジョージア	4	Teasing Georgia	S	yb 1998 Austin, David GBR: p-28: AUS Charles Au seedling
P001-20-220	つる	A2	アーシング・ジョージア	4	Teasing Georgia	S	yb 1998 Austin, David GBR: p-28: AUS Charles Au seedling
P001-20-221	つる	A2	アーシング・ジョージア	4	Teasing Georgia	S	yb 1998 Austin, David GBR: p-28: AUS Charles Au seedling
P001-20-222	つる	A2	アーシング・ジョージア	4	Teasing Georgia	S	yb 1998 Austin, David GBR: p-28: AUS Charles Au seedling
P001-20-222	つる	A2	アーシング・ジョージア	4	Teasing Georgia	S	yb 1998 Austin, David GBR: p-28: AUS Charles Au seedling
P001-25-060	つるM階級	A2	ピエール・ド・ロンサール	7	Pierre de Ronand LCI	pb	1987 Meiland, Marie-Louise FRA: p-366: ME Danse des Pink Wonders
P001-25-061	つるM階級	A2	ピエール・ド・ロンサール	7	Pierre de Ronand LCI	pb	1987 Meiland, Marie-Louise FRA: p-366: ME Danse des Pink Wonders
P001-18-070	A	A2	モーシントン	4	Maverly Hills	S	2000 Austin, David GBR: 表紙HP seedling seedling
P003-AG-019	AG(その1)	AG(その1)	イエスタデイ	3	Yesterday	Pol	mp 1974 Harkness GBR: p-633 (Phyllis Bird Ballerina)
P003-AG-026	AG(その1)	AG(その1)	イエスタデイ	3	Yesterday	Pol	mp 1974 Harkness GBR: p-633 (Phyllis Bird Ballerina)
P003-AG-027	AG(その1)	AG(その1)	イエロー・メリアンディ	12	Yellow Meilandina	Min	yb 1982 Meiland, Marie-Louise FRA: p-366: ME Popsy Flai Gold Coin
P003-AG-029	AG(その1)	AG(その1)	イエロー・メリアンディ	12	Yellow Meilandina	Min	yb 1982 Meiland, Marie-Louise FRA: p-366: ME Popsy Flai Gold Coin
P003-AG-023	AG(その1)	AG(その1)	グロリア	14	Gloria	Min	ob 1976 Williams, Ernest D. USA: p-190 Seedling Over the Ra
P003-AG-024	AG(その1)	AG(その1)	グロリア	14	Gloria	Min	ob 1976 Williams, Ernest D. USA: p-190 Seedling Over the Ra
P003-AG-034	AG(その1)	AG(その1)	グロリア	14	Gloria	Min	ob 1976 Williams, Ernest D. USA: p-190 Seedling Over the Ra

ばらリスト

事業者提案の際に提示するため、**現状のデータを分かりやすく整理**し、事業者に提供する必要があります。現在、**再整備に向けた品種・株の整理や、再整備後のばら苑の管理運営の便益性向上のため**、委託業者（川崎市公園緑地協会）とともに、**引継ぎや利便性向上のためのデータ移行等の取組**を始めています。

生田緑地憲章の考え方

- 生田緑地憲章とは、市域最大の緑地である生田緑地の自然を保全し、次世代に引き継ぐには一定のルールが必要であることから、市民と行政の協働により平成19(2007)年3月に制定したもの（生田緑地公式HPより）



- 現在は本ばら苑や生田緑地内の花壇の植栽などの取り扱いに関して柔軟に対応できるよう、**憲章を守りながらも意味づけを改めて検討する必要があります。**
- また、生田緑地に訪れる市民への周知が不足しているため、本ばら苑についても、**憲章を活かした展示手法による広報を検討する必要があります。**

生物多様性を踏まえたバラの植栽について

- これまでに引き継がれてきた生田緑地の自然的特性を踏まえた、緑地内ならではのバラの植栽手法について検討し、新しいばら苑に取り入れます。

生田緑地マネジメント会議での専門家によるご提案の例

ばら苑のバラは昆虫にどのように見えているのでしょうか。昆虫からみて目立つ品種と目立たない品種を調べて、ばら苑の配植に応用してみませんか。（明治大学 西垣・倉本）



生田緑地憲章を考える連続講座

- 生田緑地憲章を改めて市民や市職員とともに考える場として、本計画の有識者としても審議を賜ってきた明治大学・倉本宣教授より、連続講座を企画いただき、多くの市民や関係する市職員が参加しました。

第1回：2025年8月20日開催

- 生田緑地整備事務所
- 生田緑地の概要と生田緑地憲章について
- 生田緑地マネジメント会議会員松岡氏
生田緑地憲章の制定の経過について
- 生物多様性コーディネーター 石丸氏
兵庫県尼崎市の臨海部にある製鉄工場跡地の埋め立て地「尼崎の森中央緑地」で2006年から始まった**地域性苗のみを活用する森づくり**について



第2回：2025年8月26日開催

- 大阪大学人間科学研究科 佐伯准教授
遺伝的多様性の保全の重要性について

第3回：2025年12月23日開催

- 東京大学大学院農学生命科学研究科
齋藤准教授（林木の遺伝学）
- 景域計画株式会社 代表取締役
八色氏（計画・設計における野生の生き物の取り扱い）



開催状況

生田緑地憲章を踏まえたばら苑の再整備に向けて

生田緑地憲章の制定や継承に関わってきた**市民や専門家のご意見をいただきながら、生田緑地の中のばら苑ならではの管理運営手法や植栽手法などの導入を検討し、ここにしかないばら苑の実現**を目指します。

循環する管理の考え方

- 維持管理しやすい耐病性が強いバラの新品種を導入し、**減農薬による維持管理の推進**
- バラと相性の良い草花やバラの開花していない時期を補完する草花について、専門家や民間事業者の知見を踏まえ、年間管理スケジュールに配慮しながら導入**
- 間伐材の活用など、**環境に配慮した資材の活用**や**管理運営手法**
- 植栽基盤の改良と共に、雨水貯留などの**グリーンインフラ機能**、**雨水を灌水に利用する仕組み**
- バラの剪定枝や周囲の雑木林の落ち葉を活用して腐葉土とし、**肥料として活用**
- ガーデンデザイナーやガーデナーから**、ボランティアが**専門家のスキルや知識を学べる管理体制**



レインガーデン・くぼ地



植栽帯貯留



伐採木の演出への活用



剪定枝コンポスト



貯留浸透型舗装ブロック舗装

ガーデンデザイナーによる講習
あやせローズガーデン

バラの育成に関する主な年間管理スケジュールとバラを補完する植栽（案）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花		●	○	○			○	●				
水やり	△	○	△	◎	◎	◎	◎	○	△	△	△	△
施肥	追肥		お礼肥	元肥	元肥	追肥		お礼肥	寒肥			追肥
剪定	ブラインド 切り取り 台芽の処理	台芽の処理	摘芯 剪定	摘芯 剪定	剪定	剪定				ツルバラの 剪定、誘引	剪定 芽の切戻し	
薬剤	薬剤散布		薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布				消毒	薬剤散布	薬剤散布
その他	除草		中耕		台風対策				大苗の植付			
バラを補完 する 想定植栽	ハナモモ・チューリップ (3月～4月)		アジサイ (5月～6月)		サルスベリ (7月～9月)	ヒマワリ (7月～9月)	コスモス (6月～11月)	もみじ紅葉 (11月～12月)	原種シクラメン (10月～3月)	スイセン (11月～4月)	クリスマスローズ (1月～4月)	

10-4. 管理運営の考え方

新たな運営手法の考え方

- ばら苑の通年開放に向けた運営体制の検討
- 持続的に魅力的なサービスを提供できる利用料金制の導入
- ばら苑と新たなミュージアムの包括的な管理（指定管理等）の検討
- 東地区全体の魅力アップに向けた（樹林地、遊歩道等）一体的管理の検討

■現在の管理運営の課題

	ばら苑及び周辺区域の整備の方向性	一体整備による効果	
		相乗効果	調整事項
アクセス・ 動線	・年間利用できるアクセス路の確保	・ばら苑と新たなミュージアムの2施設の集客力を見込んだ車道や歩道の整備と公共交通機関の誘致の可能性が拡大	・小田急電鉄(株)が進める向ヶ丘遊園跡地利用計画との調整 ・公共交通機関の検討
景観・ みどり	・既存の自然を活かした魅力的なランドスケープを有したエリアとして整備	・2施設と管理された自然美が融合した空間を創出できる ・ばら苑を鑑賞する新たな視点を創出できる	・周辺の自然環境を活かした2施設の一体整備の検討に向けた調整が必要
憩い・ 賑わい・ 交流	・誰もが自然環境やバラを好きになるような体験活動等を提供する ・誰もが快適に過ごせるよう、飲食サービスや休憩スペースを提供する	・新たなミュージアムと連携したコンテンツ等の提供や、飲食や交流・休憩スペース等の共有が検討できる ・相互に新たなファン層の発掘が期待できる	・体験活動やプログラムの内容や施設規模の調整 ・幅広い広報活動に向けた調整
事業性	・持続可能な管理運営の実現	・スケールメリットを活かした整備・維持管理運営が可能 ・連携した料金設定が可能	・一体的な維持管理運営による効率的で効果的な運営に向けた最適な事業手法の検討

新たなミュージアムがばら苑に隣接することで、**両施設の連携運営が可能**となり、**施設の供用や、共通のテーマやイベントを設定した、プロモーション等を通じた来訪者を誘致**や、維持管理では共通のスタッフやリソースを活用することで、**効率化を図り、運営コストの削減が期待**できます。

ソフト（運営・取組、維持管理）およびハード（屋内、屋外）の両面から、**施設の管理運営の効率化を図る取組**について、次のとおり整理しました。

分類	項目	主体		内容	イメージ
		新	ばらM		
ソフト	運営・取組	○	○	ワークショップ、創作活動	   <p>植物クラフト教室 絵具で遊ぶ ものづくり</p>
	維持管理	○	○	【委託】除草・植栽の剪定・清掃 【委託】警備業務（常駐・機械警備）	
ハード	屋内	○	○	多目的室・イベントホール、授乳室・おむつ替え	   <p>多目的室 イベントホール 授乳室</p>
	屋外	○	○	学習施設、芝生広場、屋外用トイレ	   <p>学習施設 芝生広場 屋外用トイレ</p>
		○	○	駐車場（大型車バス、身障者用）、駐輪場、乗降用寄付き（一般車、タクシー）	   <p>大型車バス 身障者用スペース 駐輪スペース</p>

料金設定の考え方

「使用料・手数料の設定基準に基づき、日常生活を便利で快適にする施設として、民間実績があるものや民間と競合性の高い施設は、受益者負担率50%～100%を求める施設に該当します。川崎市 使用料・手数料の設定基準」の考えに基づき、今後の事業者ヒアリングを踏まえ、**利用料金制の導入および通年開放に向けた環境整備（期間に制限されない通路の整備、管理ヤードの確保）を検討**します。

■独立採算を目指した取組み

持続的なばら苑の運営を目指し、**入苑料を設定することで、新品种導入やイベント開催に必要な経費を賄い**、常に魅力的な施設として持続的に運営できる形を整えます。

金額設定イメージ：大人 2,000円～500円 / 小・中学生 300円～100円
入苑者数：137,670人を想定

【参考】ぎふワールドローズガーデン月ごとの入苑者数													合計
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
41,935	115,755	25,385	7,689	29,336	11,118	30,503	37,604	6,243	43,948	18,462	16,188	384,166	
36%	100%	22%	7%	25%	10%	26%	32%	5%	38%	16%	14%		

生田緑地ばら苑（想定）													合計
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
21,468	59,260	12,996	3,936	15,018	5,692	15,616	19,251	3,196	22,499	9,451	8,287	196,671	
36%	100%	22%	7%	25%	10%	26%	32%	5%	38%	16%	14%		

※R7年度春の入苑者数に、ぎふフラワーパークの月毎の入苑者の割合を反映 ※ぎふワールドローズガーデンは1月～2月上旬に無料開放
※アンケートを参考に、有料化に伴う減少分を30%（仮置き）と設定

$$196,671 \times 0.7 = 137,670 \text{ 人}$$

※ハイシーズンの料金設定イメージ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

■新たなばら苑の開苑時間、開苑日（案）

- ・3月～9月：9：00～17：00
 - ・10月～11月：9：00～16：30 （入園は30分前まで）
 - ・12月～2月：10：00～16：30
 - ・休苑日：毎週月曜日（祝日は開苑）祝日の翌日、年末年始
- ※新たなミュージアムと整合予定

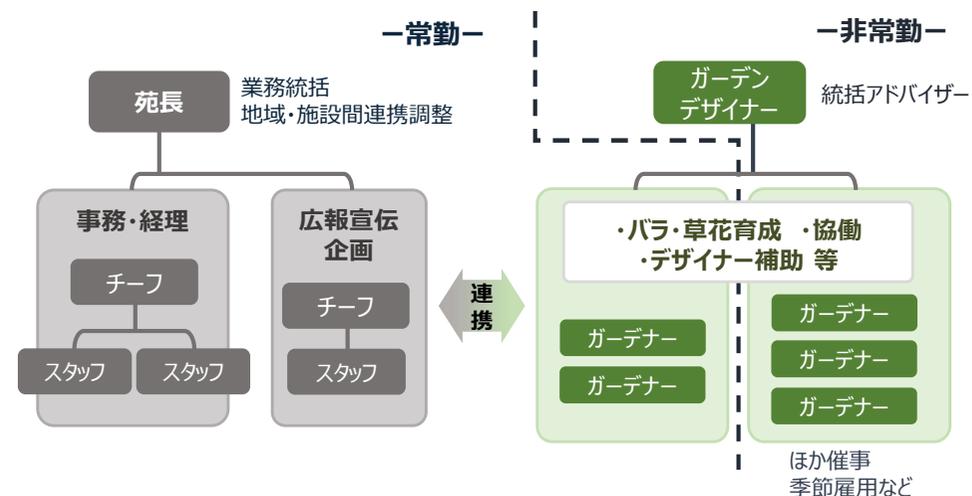
・他都市のばら苑等の現状を把握し、持続的な利用料金の設定を検討します。

例) バラの開花状況により、入苑料の変動を持たせる、年間パスポートや隣接施設との回遊チケットなど、年齢等（大人・小人等）の利用区分を設定、無料エリアと有償エリアの設定、その他市民割引など

運営体制の考え方

- ・「誰もが非日常を楽しめるサステナブルなレガシーガーデン」（案）の実現に向けては、現行業務に加え、新たな機能や役割を追加・拡充が必要です。
- ・新たな事業実施体制は、地域の公共性を十分に担保することは念頭におきつつ、**民間事業者側での配置**を想定しています。
- ・ただし、新たなミュージアムとの連携により地域コミュニティの機能が広がることも想定されるため、民間事業者だけでなく市職員の関与も含め、**地域連携における市と民間の役割分担は地域の公共性を十分に担保できるよう検討**します。
- ・**ガーデンデザイナーやガーデナーから、ボランティアが専門家のスキルや知識を学べる管理体制**を検討します。

●運営体制イメージ（案）



ガーデナースタッフと一緒に活動
（イケ・サンパーク公式HP）

10-5. 段階的整備及び概算工事費

- 現在予定している各工種の段階的な整備スケジュールは以下のとおりです。

施工工程イメージ



- 基本設計および実施設計の実施期間中に、**専門家等へのヒアリングやボランティアとの意見交換を行い、バラ株の取扱い方針を決定**します。あわせて、撤去工および造成・基盤工を円滑に進めるため、**バラ株の育成や養生等の対応を実施**します。
- 新たなミュージアムとの間に位置する交流ゾーンについては、ミュージアムの施工状況を踏まえ、関係者と調整を行いながら、**施工スケジュールの詳細を柔軟に決定**します。
- 同時期に施工を行う新たなミュージアムおよび向ヶ丘遊園跡地計画の工事進捗に柔軟に対応できるよう、アプローチ車道からばら苑側に向けて、**ばら苑エリア内に工事車両通行用の管理通路を設けることを想定**しています。

再整備における公園全体の概算事業費：現在精査中

10-6. 今後の市民協働の考え方

- 全国のバラ園の多くは、生田緑地ばら苑と同様にボランティアを募集し、維持管理等に関わっており、**ボランティアがどのような作業に参加するかは園によって異なります**。
- 理由としては、実施する手法によって作業状況にムラが生まれ、**開花状況に影響が出る等の懸念**があります。
- 新たなばら苑では、バラの専門家が管理及び有料化することを想定しており、ボランティアが行う**作業内容を限定し、各ボランティアの技術や希望に応じたレベルでの参加ができる仕組みづくりを行います**。また、作業エリアについては、現在のようなばら苑全体への作業ではなく、**一部の限られたエリア内に特化して作業を実施することも含めて検討**します。
- 特に「オールドローズコーナー」に関してはボランティアが自主的に開墾し、現在に至るまで全ての維持管理を実施してきた場所である。**既存の株や土地自体の扱いに関して、丁寧に合意形成を進める必要があります**。

協働の場の創出、支える仕組み

- 生田緑地ばら苑のレガシーである市民協働のアイデンティティを残した場所として、ボランティアが除草・花殻取り・剪定等を包括的に実施する「**レガシーガーデン**」を、**ばら苑無料エリアの中に計画**することを検討しています。このガーデンをボランティア活動の中心的な場所とし、**ばら苑有料エリア内でのボランティア活動の手法については、今後検討**を進めます。
- ボランティアをはじめ一般来苑者等の幅広い層が参加**できるような専門講師やゲストを招いた**講座やワークショップを無料エリア内で定期的**に開催し、技術向上したい方がステップアップでき、初心者でもより気軽に参加できる等の仕組みづくりを行います。
- 多くのボランティアに安心してご活動いただくために、指導者のほか、**コミュニティを運営し統括する専門性を有した人材の確保を含めて検討**します。

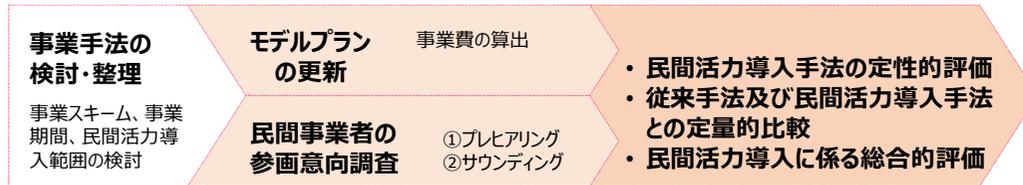


福岡バラ会ボランティア

例) 福岡市動植物園
再整備時、旧バラ園からバラ30株を選び
新エリアに移植し、大切に育成している。

■現在の民間活力導入に向けた検討状況

具体的な事業手法の決定に向けて、本事業の性質の整理、モデルプランの更新と共に、①新たなミュージアムとの連携、②施設配置、③参画障壁、参画条件、リスク分担、④詳細な事業費等についての検討を行い、**他都市事例の調査やプレヒアリング調査やサウンディング調査等を活用しながら検討を進めています。**



11-1. 基本的な考え方

令和6年度に行った、民間活用手法導入に係る簡易な検討結果において、定性評価では民間活用手法の優位性が見込まれ、定量評価においても**一定のコスト削減が見込める**ことから、生田緑地ばら苑整備事業については、**民間活用手法の導入によりサービス水準の向上や工期・手続等の効率性、財政効果の面から一定のメリットがある総合評価**となりました。

事業方式の詳細検討は、**簡易な検討結果に基づき、エリア全体の価値向上を目指して検討を進めています。**

11-2. 想定する事業体制・期間・範囲

現在、ばら苑の業務は委託により公園緑地協会が担っていますが、再整備後に目指す「(案)誰もが非日常を楽しめるサステナブルなレガシーガーデン」の実現に向けては、**現行業務に加え、新たな機能や役割を追加・拡充していく必要があります。**

バラの感染症対応やボランティアの高齢化・担い手不足への対応、通年開放の実現、品種の保全・育成、企画運営による魅力創出などを含む、**すべての苑内管理について、民間事業者に委ねるかどうかの判断が必要**です。

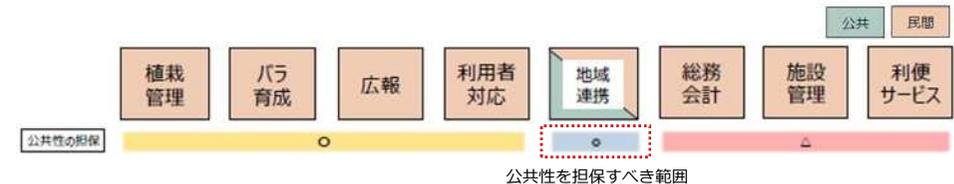
また、今後は新たなミュージアムとの連携により地域コミュニティの機能が広がることも想定されるため、**民間事業者だけでなく市職員の関与も含め、地域連携における市と民間の役割分担について検討する必要があります。**

■本事業の性質の整理（随時更新予定）

項目	内容
施設・事業目的	「誰もが非日常を楽しめるサステナブルなレガシーガーデン」 <ul style="list-style-type: none"> コレクションの継承、持続的な管理運営、自然環境への配慮 歴史を継承しつつ一層魅力的な庭園文化の拠点化 施設・コンテンツの更新・充実、市民協働の強化
事業内容	園地・園路・施設の全体改修：設計・解体・造成（植栽基盤整備を含む）・建設・工事監理・新たなばら苑の管理運営：維持管理・運営
事業規模	園地・施設面積等15,000㎡程度（うち施設延床950㎡程度）
運営方針	通年開放と入苑料設定による賑わいの創出とサービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> 市民協働の継続と指導の強化
事業性	現施設は委託料による委託管理＋無料開園であり、今後入苑料を設定
魅力・ポテンシャル	貴重かつ豊富なばらコレクションと歴史ある庭園・施設の魅力 <ul style="list-style-type: none"> 都市の中の秘密の花園（特別感のある立地・景観） 市民に開かれた過ごしやすい芝生広場 長年に亘る市民協働体制の維持と文化醸成
課題	<ul style="list-style-type: none"> 周辺施設とのアクセス性・回遊性の向上 自然環境・風景の継承・保全と活用 賑わいの創出、集客力の向上
連携・相乗効果	東地区エリア全体で①憩い・賑わい・防災機能としてのオープンスペース、②様々な交流創出の場、③花と緑の拠点の役割が求められている <ul style="list-style-type: none"> 2施設（＋広場）の一体整備による魅力的な空間構成の創出、施設の共用化、連携利用（料金設定、イベント・コンテンツ等）による利用者数の向上（新たなファン層の発掘）、生田緑地全体での文化観光資源としての魅力強化などの効果が見込まれる

■事業範囲イメージ

再整備後の苑内管理やボランティアとの連携調整、オープンスペースの有効活用等を含め、**地域の公共性を十分に担保することを念頭に置き、単なる営利目的に偏らず、民間事業者へ委ねる範囲について検討**を行います。



■事業期間の検討

運営期間が長くなるとリスクが増し、事業性の見通しが難しくなるため、**民間事業者の参入障壁が高まる可能性があります。**一方で、一定の運営期間を求める民間事業者も想定されることから、今後のヒアリング等で受け入れ可能な期間を確認する必要があります。

本事業の工程は以下のとおりと想定しています。環境アセスメントに係る手続と並行しながら、令和10年度から設計業務に着手いたします。開業に向けて、工事期間中ばら苑は休苑します。

新たなミュージアムは、基本計画において、PFI（BTO）方式と仮定し、設計・各種法定手続・工事などの標準的期間を考慮の上、与件整理前に想定される最短の開館時期を令和13年度末とし、より詳細なスケジュールは管理運営計画の中で示すとしており、**ばら苑は最短開苑時期を令和13年度末と公表**しています。

検討を深度化する中で、**諸手続が具体化**（環境アセスメントの項目・手続、総合調整条例、確認申請、ミュージアムにおけるオープンに向けた枯らし期間・施設内の環境調査、バラの育成期間など）してきたことなどから**スケジュールの精査が必要**となっています。

	令和10年度～工事着手までの工程(精査中)	着工後、オープンまでの工程（精査中）	令和XX年度				
生田緑地ばら苑	生田緑地ばら苑管理運営整備方針に基づく取組の推進						
	生田緑地ばら苑の運営（委託）	休苑	維持管理・運営 事業終了				
	環境アセスメント	建築工事 外構工事		開苑			
	基本設計・実施設計	植栽整備・養生		開苑準備	開館		
		展示制作		開館準備		搬入	
				展示工事			外構工事
				建築工事			
	引継業務						
	川崎市市民ミュージアムの運営（一部委託）						
	ミュージアム管理運営計画に基づく取組の推進						

※環境アセスメント手続きは基本設計と概ね並行して進めることを想定しているが、各種調査、協議等の進捗状況に応じて柔軟に対応できるよう、工程間に適切な調整期間を確保したスケジュールとすることを検討している。